



平成30年度
「障害者の生涯学習支援活動」に係る
文部科学大臣表彰

事例集

平成30年度
文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室

平成 30 年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰 事例集の発行にあたって

文部科学省では、障害のある方が生涯にわたり自らの可能性を追求し、地域の
一員として豊かな人生を送ることができるよう、平成 29 年度より省内に「障害
者学習支援推進室」を設置し、あわせて、省内の教育、スポーツ、文化の関係課
や厚生労働省の障害福祉、障害者雇用対策関係課の協力を得て、「特別支援総合
プロジェクト特命チーム」を結成し、施策を推進しています。

この取組の一環として、昨年度より、障害のある方の生涯学習を支える活動を
行う個人又は団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対し、その
功績をたたえ、文部科学大臣表彰を行っています。

2 回目となる今年度は、67 の個人及び団体の皆様を表彰することになりました。
都道府県や指定都市からは、各地域における素晴らしい活動を行う皆様を御
推薦いただきました。障害のある方の身近なところで、教育、スポーツ、文化等
の多様な学習活動を展開し、それを長年にわたり継続していく、大変意義深い、
重要な取組がたくさんあります。

表彰された皆様の取組を、ぜひとも障害のある御本人様、保護者や支援者の皆
様、都道府県、市区町村の障害者の学習支援に関わる皆様、社会教育、特別支援
教育、障害福祉に関わる皆様など、幅広い方々に知っていただくため、表彰され
た皆様の活動などを、ここに事例集としてまとめました。本事例集を多くの方に
御覧いただき、障害のある方の生涯学習を支える活動が、各地域に根差した形で、
一層推進されることを期待しております。

最後に、本事例集作成に当たりまして、表彰された皆様や都道府県、市区町村、
関係団体等の皆様に多大な御協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げ
ます。

平成 30 年 12 月

文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室長 高見 暁子

目次

No.	推薦者	被表彰者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	こんな活動です	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
1	北海道	特定非営利活動法人 カムイ大雪/バリアフリー研 究所	障がい当事者がリードするパラス ポーツ観光推進と誰にもやさしい まちづくり	～誰にもやさしい暮らしやすい街 へ～ パラスポーツ交流とバリアフ リー観光を推進しています	スポーツ、文 化、福祉、観 光、まちづく り等	1
2	北海道	今 順子	福祉出前講座、障害者スポーツ 等の普及、和太鼓チーム「湯乃華 太鼓」、「あいサポート研修」	障がい者に対する理解促進 障がい者スポーツ等の普及	学習、スポー ツ、文化	2
3	青森県	若木 政人	はまなす青年教室	障害がある人も無理なく参加でき る楽しい仲間づくりと育ちあいの場	学習	3
4	岩手県	特定非営利活動法人 岩 手点訳の会	点訳図書製作事業等	文字情報を点字で正確に提供 & 点字のPR	文化	4
5	岩手県	いわて・きららアート協会	いわてきらら・アート・コレクション	アートを通して、誰もが心豊かに生 きていく場を作る	文化	5
6	宮城県	柴田町朗読ボランティア 「結」	広報紙等の音訳録音・配布、朗 読ボランティア、デイサービス施 設での対面朗読等	音訳中心のボランティアですが、 自分達も楽しんで行なっていま す。	音訳による 朗読サービ ス	6
7	秋田県	秋田すずめの会	秋田すずめの会	障害があってもなくても ♪みんなで なかよく いつまでも ♪	文化、障害 者と地域の 交流をサ ポート	7
8	山形県	山形市身体障害者福祉協 会	障がい者生きがい創出活動	みんな輝け いきいき人生応援	スポーツ、文 化	8
9	栃木県	栃木県足利市教育委員会 事務局生涯学習課 助戸公民館青少年学級 「あおぞら青年学級」	あおぞら青年学級	みんなが一つの輪になって 助け合おう・励まし合おう・ともに歩 もう	スポーツ、文 化、料理、 フィールド ワーク	9
10	栃木県	飯田 チカ	知的障害者を対象とした書道教 室	ぼくもわたしもお習字だいすき	学習、文化	10
11	埼玉県	特定非営利活動法人スト ロベリーハート	知的障がい者の音楽グループの 音楽活動支援	音楽活動支援、会報誌による啓発 活動、相談事業	文化	11
12	千葉県	むつみおもちゃ図書館	むつみおもちゃ図書館(あったか 大久保ひろば自主事業)	おもちゃの貸し出し・遊び場の提 供 音楽活動など	文化	12

No.	推薦者	被表彰者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	こんな活動です	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
13	千葉県	千葉県立特別支援学校流山高等学園親の会KOYOクラブ	千葉県立特別支援学校流山高等学園親の会KOYOクラブ	FACE to FACE —“顔が見える関係”を大切に、そして知的障害をもつわが子にたくさんの笑顔を！	学習、スポーツ、文化、離職者の就労支援	13
14	東京都	調布市教育委員会教育部社会教育課	①杉の木青年教室、②遊ing、③のびのびサークル	障害のある方を対象に、スポーツや文化活動、レクリエーション等を行っています。	スポーツ、文化	14
15	東京都	大滝 敏市	かつしか教室	かつしか教室は知的障害者の方の仲間づくりや余暇活動を支援する場です。活動を通じて、参加する方々が緩やかでも社会的自立を目指すよう願って活動しています。	学習、スポーツ、文化	15
16	東京都	障害をこえてともに自立する会	喫茶コーナーの運営活動を通じた青年期の学びと共生のまちづくりに向けた取組	障害をこえてともに働く喫茶店	学習	16
17	東京都	名取 潮子	日野市障害者訪問学級	学び続けたい障害者を、一人一人の希望に合わせて支えを継続しています	学習	17
18	神奈川県	成田 文忠	障がい者へのピアノ指導「小さな小さな音楽会」の開催	それぞれのペースで楽しくピアノのレッスンをしています。	文化	18
19	神奈川県	綾瀬市手話サークルあやの会	聴覚障がい者との交流・手話学習、聴覚障がいに対する理解を深める啓発活動、手話の普及活動	手話の勉強会・イベントを通して、聴覚障がい者との交流や支援を行っています。	障がい者支援	19
20	新潟県	阿部 雅子	新潟県難聴児を持つ親の会	聴覚障害のある児とその家族が集い、楽しく活動したり情報交換をしたりしています。	学習	20
21	岐阜県	特定非営利活動法人ぎふ要約筆記かがり火	音声バリアフリー社会を目指して	いつでも・どこでも・だれにでも文字情報を！	学習	21
22	静岡県	藤枝市若松青年学級	藤枝若松青年学級	社会人の豊かな生活と仲間作りにむけて活動しよう	学習、スポーツ、文化、旅行	22
23	静岡県	静岡県障害者就労研究会	障害のある人と大学生が共に学ぶ講座	生活の中で学び続けることの面白さ、楽しさを知ろう	学習、スポーツ、文化、支援者向け学習会、調査活動	23
24	愛知県	西尾 啓江	「きもの手話」を考案、難聴者向け着付け講習会等	着物文化・着付けの普及を通して、障害のある子どもたちの社会自立を促す活動を行っています。	文化	24

No.	推薦者	被表彰者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	こんな活動です	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
25	愛知県	社会福祉法人 岩倉市社会福祉協議会	障害児・者のスポーツ・音楽による自立や社会参加等の促進事業	障害の区別なく一緒にスポーツ・音楽を楽しむ	スポーツ、文化	25
26	三重県	一般社団法人三重県ビルメンテナンス協会	三重県障害者技能競技大会(アビリンピックみえ大会)でのビルクリーニング種目の運営・評価	アビリンピックみえ大会ビルクリーニング種目の運営	社会教育	26
27	大阪府	ジェネシスオブエンターテイメント	車いすダンス教室の開催・車いすダンス講演会の開催	夢と元気を伝える仕事 楽しむ喜びから創る喜び、そして伝える喜びへ	スポーツ、文化	27
28	兵庫県	西宮市教育委員会(西宮青年生活学級)	西宮青年生活学級	障害のあるなしに関わらず、みんな同じ社会人として参加し、学習し、楽しむ場の提供	社会体験、生活体験	28
29	兵庫県	三田市(障がい者交流サロン(きらりんクラブ))	障がい者交流サロン(きらりんクラブ)	みんな一緒、みんなが集う市民センターで、いきいき学ぶ	文化	29
30	島根県	社会福祉法人いわみ福祉会(芸能クラブ)	社会福祉法人いわみ福祉会 芸能クラブ	障がい者による伝統芸能「石見神楽」の上演	文化	30
31	岡山県	岡山県知的障害者福祉協会	ゆうあい文化祭	知的障害のある人のさまざまな自己表現を通じて、障害への理解を広め、共生社会の実現を目指す文化祭!	文化	31
32	広島県	朗読研究会「つばき」	音訳・朗読活動	利用者の声に寄り添った音訳活動	学習、文化	32
33	広島県	府中音訳・朗読グループ「クローバー」	音訳・朗読活動	郷土史を声でお届け	学習、文化	33
34	山口県	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツをとおして、故郷を誇れる社会に	スポーツ	34
35	徳島県	藍住福祉スポレククラブ	障がい者ふれあいスポーツ教室	障がいがあっても、共にスポーツでいい汗かこう!!	スポーツ	35
36	徳島県	うりうりごりら	児童・生徒への絵本の読み聞かせ活動	「うりうりごりらのおはなし会」で楽しく絵本の読み聞かせをしています。	学習	36

No.	推薦者	被表彰者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	こんな活動です	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
37	愛媛県	NPO法人タンデム自転車NONちゃん倶楽部	障がい者のサイクリング活動	障がいなんて吹っ飛ばせ！！	スポーツ	37
38	愛媛県	NPO法人カノン	障がい者との音楽活動	音楽を使った楽しい活動♪	文化	38
39	高知県	NPO法人YASU海の駅クラブ	ハンザクラス Hand in Hand 高知大会	障害があってもなくても真剣勝負、「みんなが楽しい」ヨットレースを！	スポーツ	39
40	福岡県	福岡県立図書館 音訳の会	録音図書製作	録音図書を視覚等に障がいがある方へお届けします！	学習、文化	40
41	福岡県	ふみの会	点訳、福祉教育支援活動	無理せずできる事をできるしこ！（しこ＝方言で“だけ”の意味）	学習	41
42	佐賀県	山田 力也	障害者スポーツの支援及び普及	誰もが生涯スポーツを楽しめる環境づくり	スポーツ	42
43	佐賀県	小松原 修	障害者の文化芸術活動支援	障害者のチャレンジを演劇で支援する体制づくり	文化	43
44	長崎県	亀田 信樹	長崎県障害者スポーツ大会の企画・運営等	スポーツを通じた障害者社会参画の推進	スポーツ	44
45	大分県	ソニー・太陽株式会社	ソニー・サイエンスプログラムを活用した「インクルージョン・ワークショップ」等	「未来を生きる子どもたちへ、科学のチカラを」障がいの有無に関わらず、誰もが科学に触れることができるように、科学体験・ものづくり講座を実施しています。	学習	45
46	宮崎県	輝きエイサーサークル	輝きエイサーサークル	エイサーを通じて仲間の言葉が支え、輝く笑顔がいっぱい	文化	46
47	千葉市	千葉幕張ロータリークラブ	アートフレンズ展	障害のある方々のアート活動を支援することを目的とし、作品展の企画運営や作品絵はがきの販売などを行います。	文化	47
48	横浜市	ぐるーぷ・ちえのわ	ちえのわホームを拠点とした余暇支援活動	～まなぶ・あそぶ・つくりだす～	学習支援、さをり織、草木染、余暇支援	48

No.	推薦者	被表彰者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	こんな活動です	分野	ページ
【都道府県・指定都市関係】						
49	横浜市	横浜マリノス株式会社	・横浜こどもスポーツふれあいDAY ・横浜市立特別支援学校へのチケットの寄贈 ・横浜F・マリノスカップ「電動車椅子サッカー大会」	誰でも気軽にスポーツを楽しめる環境創り	スポーツ	49
50	浜松市	Weedy	ダウン症など障害のある子供たちとその家族の社会参加を目指すストリートダンス	みんなでLet's Dance	文化	50
51	京都市	一般社団法人 京都障害者スポーツ振興会	障害のある人のためのスポーツ振興事業	障害者が「いつでも・どこでも・気軽に」スポーツができる環境づくりとスポーツの高度化と輪を広げる活動	スポーツ	51
52	大阪市	大阪市聴言障害者協会	聴覚障がい者成人学校事業	聴覚障がい者の社会参加が促進されるように取り組んでいる学習活動です。	学習、スポーツ、文化	52
53	北九州市	公益財団法人 北九州市身体障害者福祉協会	北九州市立東部障害者福祉会館や北九州市立西部障害者福祉会館等運営、北九州市障害者芸術祭開催事業等	障害のある人の文化活動を企画・支援しています	文化	53

次のページに続きます

No.	推薦者	被表彰者の名称 (個人名・団体名)	活動名称	こんな活動です	分野	ページ
【文部科学省推薦関係】						
54	特別支援教育 ＜全国特別支援 教育推進連盟＞	仲谷 侑子	大阪LD・軽度発達障害親の会 「翼」演劇教室	個性に合わせて人形劇や紙芝居 などの演目を選び練習	文化	54
55		青鳥ミチル会	東京都立青鳥特別支援学校卒業生保 護者の会 同窓会(青友会)の支援、関係機関と の連携による障害者理解の促進、啓 発	知的障害のある卒業生に対する 学びや相談、親睦の機会を提供し 、社会参加を促進、豊かな生活 の実現を支援	余暇活動支援 (料理、スポー ツ、音楽)、相談 支援(よろず相 談)、卒業生保 護者の親睦	55
56	障害者スポーツ ＜日本障がい者 スポーツ協会＞	一般社団法人日本身体障 がい者水泳連盟	日本パラ水泳選手権大会の開 催、選手の競技力向上や指導者 の育成に向けた事業の実施	障がいがあっても泳げるよ！生涯 現役を目指そう！	スポーツ	56
57		橋本 和典	奈良県障害者スポーツ協会、奈 良県障害者スポーツ指導者協議 会、日本身体障害者アーチェリー 連盟	地域における障がい者スポーツの 普及活動 障がい者アーチェリーの普及、強 化	スポーツ	57
58	障害者文化芸術活動 ＜2020年東京オリ ンピック・パラリンピック に向けた障害者の文 化芸術活動を推進す る全国ネットワーク＞	渡嘉敷 美恵子	手話ダンス	手話ダンスで結ぼう心の糸	社会福祉、 社会教育	58
59	大学における学習 ＜各大学＞	長崎純心大学人文学部地 域包括支援学科	純心カレッジミツ山塾	大学で学びと交流の場を	学習	59
60		国立大学法人帯広畜産大 学馬介在活動室	人と馬の絆による教育・研究・社 会貢献活動	十勝の雄大な自然の中、大きな 動物(馬)を用いた障がい者の 生活の質向上に取り組んでいます。	スポーツ、馬を 介した情操教 育、アニマルセ ラビー	60
61		国立大学法人静岡大学	公開講座「学ぶって楽しい！～大 学で学ぼう～」	大学での学びと交流が広げる社 会参加	学習	61
62		ひまわり会(特別支援学校 卒業生等を支援する会)	主に知的障害のある本人への余 暇活動への支援	“仲間”との活動は“安心と笑顔” がいっぱい！	学習、スポー ツ、文化、その 他(農園活動、 本人の会)	62
63		NPO法人札幌大学スポー ツ・文化総合型クラブ	チャレンジ学習塾・スポーツ塾	学習やスポーツを通して生涯学習	学習、スポー ツ	63
64		淑徳大学東京キャンパス ボランティアセンター	知的障害者生涯学習支援事業 1)音楽で遊ぼう等(余暇支援)、 2)一日大学体験(オープンカレッ ジ体制による生涯学習支援)	本学教員が講師を担い、大学をフィールドと し、学生がコミュニケーションを取りながら生涯 学習を支援する取り組みです。2004年度より 実施しこれまでに合計29講座(参加者数はの べ496名)を開催しています。	学習、文化	64
65		姫路獨協大学医療保健学 部 子育て・発達障害サポート 運営委員会	プレイルームわくわく	発達障害児と家族の遊び場サ ポート思いっきり身体を使ってわく わくを体験しよう！	発達障害児 支援	65
66	北海道医療大学オープン カレッジ準備委員会	オープンカレッジin北海道医療大 学	1日大学生！講義を選んで勉強し よう	学習	66	
67	龍谷大学・龍谷大学短期 大学部 龍谷エクステンションセン ター(REC)	ともいき大学(知的障がいのある 市民のための福祉と教養講座)	知的障がい者の「もっと社会や自 分自身について学びたい」という 願いに応えて	学習、文化	67	

プロフィール

所在地	北海道旭川市	活動分野	スポーツ、文化、福祉、観光、まちづくり等
受賞者名	特定非営利活動法人カムイ大雪バリアフリー研究所	主な対象	肢体不自由、視覚障がい者、聴覚障がい者、知的障がい者、その他の障がい者
活動名称	障がい当事者がリードするパラスポーツ観光推進と誰にもやさしいまちづくり	団体の規模（団体の場合のみ）	常勤職員 10 名 （うち理事兼務 3 名）
こんな活動です	～誰にもやさしい暮らしやすい街へ～ パラスポーツ交流とバリアフリー観光を推進しています		
連携している団体等	公益法人、スポーツ団体、文化芸術団体、企業・事業所、病院・保健所、行政（教育、保健・福祉、スポーツ、観光・子育て）大学、市民団体		

活動の説明

①活動内容	<p>当該研究所は、障がい当事者グループ「車いす紅蓮隊」と旭川医科大学をはじめ地域の大学関係者、病院、福祉用具制作、旅行事業者等で構成されており、ホテル、料飲事業者や旭川障がい者文化スポーツ振興支援会、市民団体、観光協会、商工会議所等と連携して「障害者の自立就労支援サポート」を中心的な事業に据えて「カムイ大雪バリアフリーツアーセンター」を設立し、移動が困難な高齢者や障がい者の旅行の受け入れを支援する無料相談センターを運営しています。</p> <p>また、バリアフリー観光の問い合わせや相談を受ける際に必要となる宿泊、料飲食、観光施設やサービスの状況を、障がい当事者視線で現地調査を実施しているとともに、夏まつりや冬まつり等の地域独自のイベントにおいて、アダプテッドスポーツ（障がい者や高齢者、子供たちも参加できるように修正創作された新しいスポーツ）を意識的に組み合わせた旭川独自の誰にでもやさしいまちづくりを進める調査、企画運営も実施しています。</p> <p>更には、障がい当事者による誰にでもやさしい、法律の枠を超える「ホンモノ」の障がい者自立就労を可能とする障がい福祉サービス施設「就労継続支援施設 A 型 B 型 チーム紅蓮」を運営しています。</p> <p>この他に、住民の身体的・精神的・社会的な健康（ウェルビーイング）の達成を目指す（一社）旭川ウェルビーイング・コンソーシアムのバリアフリー研究ワーキンググループをはじめ地域内外の様々なバリアフリー推進活動に参加し、パラスポーツとバリアフリー観光を組み合わせまちづくりを進めています。</p>
②活動体制	<p>車いす紅蓮隊が中心となり、旭川医科大学や旭川パラスポーツ協議会、旭川障がい者文化スポーツ支援会など地域の活動団体と連携をしながら、様々なパラスポーツ観光推進に協働で取り組んでいます。</p> <p>また、道北地区障害者スポーツ指導者協議会と協働して、アダプテッドスポーツの開発や用具開発に取り組むほか、バリアフリー観光推進や農福観連携に関する国や市の事業を複数受託実施しています。</p>
③活動の効果等	<p>子ども、障がい者、高齢者、福祉、保健・医療、教育・学習支援、地域・まちづくり、スポーツ振興、経済活動の活性化、就労支援・労働問題、消費者保護と非常に幅広い分野を、関係各機関と連携しながら、障がい者や高齢者、また手助けを必要としている方々が安心して暮らしていける地域づくりや共生社会の実現に向けた活動を 10 年以上行っており、幾度となくその活動を新聞で紹介されるなど、永年にわたり地域の障がい者の生涯学習支援活動に貢献しています。</p> <p>特に、障がい者スポーツの分野においては、旭川パラスポーツ協議会ははじめ、旭川圏域のパラスポーツ団体の運営事務局を担当し、パラリンピアン等を招聘したパラスポーツ体験講座や IPC パラリンピック教育の講座を企画開催するなど、その活動は地域の障がい者スポーツの理解促進に大きく貢献しています。</p>

活動の様子



ちびっ子たちと車いす登山にチャレンジ



あさひかわ雪あかりと車いすラグビー日本代表合宿を合体

プロフィール

所在地	北海道登別市
受賞者名	今 順子
活動名称	福祉出前講座、障害者スポーツ等の普及、 和太鼓チーム「湯乃華太鼓」、「あいサポート研修」
こんな活動です	障がい者に対する理解促進 障がい者スポーツ等の普及
連携している 団体等	小学校、スポーツ団体、社会福祉法人、行政（保健・ 福祉部局）、町内会、民生委員

活動分野	学習、スポーツ、文化
主な対象	身体障害

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 平成12年4月～ 社会福祉法人登別市社会福祉協議会が市内小学校で実施している「福祉出前講座」において、車いす使用者としての講話と実技を行い、子どもたちに対して、車いす使用者や障がいのある方に対する接し方、サポート方法などを指導しています。 平成13年頃～ 市民スポーツ健康フェスティバルなどで、ポッチャやゲーリングといった障がい者スポーツ等の普及に取り組んでいます。 平成18年6月～ 障がい者らでつくる和太鼓チーム「湯乃華太鼓(ゆのかだいこ)」の代表として、数々の地域イベントに参加しています。 平成29年4月～ 登別市が実施している「あいサポート研修」で、車いす使用者としての講話と実技を行い、市民に対して、車いす使用者や障がいのある方に対する接し方、サポート方法などを指導しています。 <p>【活動歴】 登別身体障害者福祉協会会長（平成26年4月～現在） 登別市障害者福祉関係団体連絡協議会副会長（平成18年4月～現在） 北海道身体障害者福祉協会理事（平成25年4月～現在） 登別市身体障害者相談員（平成21年4月～現在）</p>
②活動体制	登別身体障害者福祉協会会長として、引き続き、地域の先頭に立って、市内小学校や自治体等と連携を図りながら、「福祉出前講座」、「障がい者スポーツの普及」、「湯乃華太鼓」を始めとする文化活動や登別市「あいサポート研修」等に継続して取り組んでいます。
③活動の効果等	障がいのある当事者としての立場から、車いす使用者の講話と実技を行い、子どもたちや市民に障がいのある方に対する接し方、サポート方法などの指導を通して、障がいへの理解促進に貢献しています。 また、自らが障害者スポーツ大会で優秀な成績を収めていることなどもあり、市民スポーツ健康フェスティバルなどでポッチャやゲーリングといった地域での障がい者スポーツ等の普及にも貢献しています。 この他、障がい者等でつくる和太鼓チーム「湯乃華太鼓(ゆのかだいこ)」の代表として、数々のイベントに積極的に参加し、多くの障がい者の文化活動促進にも貢献しています。

活動の様子

	
小学校での福祉出前講座	市民スポーツ健康フェスティバルでの指導

プロフィール

所在地	青森県青森市
受賞者名	若木 政人
活動名称	はまなす青年教室
こんな活動です	障害がある人も無理なく参加できる 楽しい仲間づくりと育ちあいの場
連携している 団体等	公民館、NPO 法人、社会福祉法人

活動分野
学習
主な対象
知的障害

活動の説明

①活動内容	<p>知的障害のある青年のための社会教育活動として、昭和48年から現在の青森市中央市民センターの前身である青森市中央公民館と連携し、「はまなす青年教室」の開設に尽力した。以後、今日まで、障害者の社会教育活動を支援するサポーターのリーダーとして常に中心的役割を果たしており、障害者の活動の支援はもとより、支援するサポーターの育成にも率先して取り組んでいる。</p> <p>「はまなす青年教室」においては、一人一人の障害程度や性格をよく理解した上で寄り添う姿や、ユーモアたっぷりの明るい雰囲気です接する姿が見られるなど、サポートする市民の良き手本役となっている。</p> <p>また、事業計画作成に当たっては、参加する障害者の意見の取りまとめのほか、長年障害者支援に携わってきた経験をもとにアドバイザー的役割も担っている。</p>
②活動体制	<p>「はまなす青年教室」では、年15回、日曜日の午前10時から12時までの2時間、市民センターを会場として、絵画制作、音楽学習、運動、ゲーム、料理や校外学習などを行っているが、現在登録された支援対象の知的障害者41名に対して、17名の市民が講座運営のサポート役となって登録しており、受賞者はそのサポートリーダーとして、指導的立場で関わっている。運営・企画・実施に当たっては、市民センター職員とサポート役の市民が協議しながら、参加する障害者の希望を取り入れて行っている。</p> <p>また、年間の計画の作成や各講座の運営にも携わっており、時には、自身が講師を率先して務めるなど常に障害者の生涯学習支援活動の先導者として取り組んできている。</p>
③活動の効果等	<p>知的障害のある青年の生活に必要な知識、技能の習得を通して教養や資質を高める「はまなす青年教室」の取組は、社会的適応力の伸長に貢献しており、年齢も障害程度も異なる集団活動の中で、仲間意識や社会生活を送る上での自主性の醸成に役立っている。また、年齢も若く障害程度の軽い支援対象者は、受賞者たちに密接に支えられながら、自分たちの活動を自分たちで企画していくというリーダー的役割ができるよう育ってきているなど、知的障害者に対する理解を深める活動と障害者の生涯学習活動の両面に貢献している。</p>

活動の様子



絵手紙作成中



エアロビクスに挑戦中

プロフィール

所在地	岩手県盛岡市	活動分野	文化
受賞者名	特定非営利活動法人 岩手点訳の会	主な対象	視覚障がい者
活動名称	点訳図書製作事業等	団体の規模（団体の場合のみ）	会長1名 副会長2名 理事12名 監事2名 （一般会員125名）（賛助会員6名）
こんな活動です	文字情報を点字で正確に提供 & 点字のPR		
連携している団体等	図書館、NPO法人、行政（教育委員会、保健・福祉部局）、保健・福祉関係団体、企業・事業所		

活動の説明

①活動内容	<p>○ 昭和34年10月の発足以来59年の長きにわたり、県内はもとより全国の視覚障がい者のために点字図書の製作を行っています。</p> <p>1 点訳活動 岩手県立視聴覚障がい者情報センターの点字図書製作、プライベートサービスの点訳その他依頼等による点訳技術提供活動。（29年度点字図書製作72タイトル237冊、プライベート点訳64件）</p> <p>2 点訳技術向上事業 毎月の例会開催。会報の発行による会員への情報提供。点訳勉強会の隔月開催。 （例会参加延べ430名、年12回。点訳勉強会延べ175名、年5回。スキルアップ学習会228名、40回）</p> <p>3 調査・研究事業 研修会等への会員派遣による全国レベルの情報収集と技術習得及び点訳等の調査・研究。 （隔年北海道・東北・新潟点字図書館等連絡協議会点訳部会への参加、点字指導員研修会への参加）</p> <p>4 啓発・普及事業 点字・点訳の啓発・普及事業として、岩手県立視聴覚障がい者情報センターや他団体からの要請による、積極的な点字・点訳の啓発・普及活動。 （点字スクール一般対象2件、小学生対象3件、計114名に対して延べ10名の会員を派遣）</p> <p>5 友好・連携活動 他団体との友好関係の維持と積極的な連携。</p>
②活動体制	<p>○ 月1回の定例会及び年1回の総会への参加、各勉強会、スキルアップへの参加。県内各地在住の会員125名が各自宅で活動を行うことにより、多くの書籍・資料の点訳を行っています。</p> <p>○ NPO法人として組織的な活動を展開しています。</p>
③活動の効果等	<p>○ 点訳図書・プライベートサービスの資料の点訳により、視覚障がい者の読書活動の機会を確保しています。また、点字の普及を図ることにより、視覚障がい者への一般県民の理解を深めるきっかけ作りに貢献しています。</p> <p>○ 会員が県内各地に点在しており、地元の点字サークルの中心となって活動しています。また、後進の育成に当たるなど人材育成に波及効果をもたらしています。</p>

活動の様子

	
総会終了後の研修会	点字体験コーナー

プロフィール

所在地	岩手県花巻市	活動分野	文化
受賞者名	いわて・きららアート協会	主な対象	知的障がい者
活動名称	いわて・きららアート・コレクション	団体の規模（団体の場合のみ）	14名
こんな活動です	アートを通して、誰もが心豊かに生きていく場を作る		
連携している団体等	特別支援学校、社会福祉法人、企業・事業所、行政（教育委員会、文化振興課）		

活動の説明

①活動内容	<p>○ 平成10年から、県内の知的障がいを持つ方が創作した作品を中心に公募し展示する「いわて・きららアート・コレクション」を開催しています。当該事業は、知的障がい者を中心とする障がい者の芸術活動を支援し、知的障がい者による優れた芸術文化活動の成果を発表することを通じて、多くの県民に鑑賞の機会を提供することにより、障がいのある人の社会参加・自己実現と、地域社会の障がいのある人々への理解を深めることを目的とした公募展としています。また、当該公募展は、専門家による賞の選考プロセスを取り入れており、発掘・評価及び発信の一連の機能を有しています。</p>
②活動体制	<p>○ 協会の事務局を務める社会福祉法人は、障がい者の作品が常設展示される美術館を経営しており、障がい者の創造性が十分に発揮されることを目指した造形活動の支援を継続的に行っています。</p> <p>○ 協会の運営委員会は、県内の福祉関係者・美術家・一般市民等らの有志によって構成されていることに加え、広報面においては行政が後援により協力するほか、地元の企業に協賛をしてもらうなど、官民で連携して取組を実施しています。</p>
③活動の効果等	<p>○ いわて・きららアート・コレクションでの受賞作品が、平成23年にフランスのパリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ展」に出展されるなど、全国や世界に発表や活躍の場を広げた知的障がい者もいることから、同公募展が県内に存在する優れた作者や作品の発掘、情報発信に寄与するとともに、作者一人ひとりの自己実現の喜びや活躍の機会の拡大に結びついています。</p> <p>○ 継続して知的障がい者が創作した作品を多くの人々に発表することを通じて、岩手県における障がい者の社会参画等が促されるとともに、障がい者芸術分野の普及啓発にも寄与しています。</p> <p>○ いわて・きららアート・コレクションの実施に際しては、行政のほか、地元の企業等を巻き込み、より多くの方々に障がい者芸術の理解促進を促すような広報がなされています。</p> <p>○ 同公募展に出展された作品が県内の酒造会社が発売したお酒のラベルとなるなど、他分野にもその活用が広がっています。</p>

活動の様子



障がいのある方々の日々の創造が活動の源



公募展「いわて・きららアート・コレクション」の開幕

プロフィール

所在地	宮城県柴田郡柴田町	活動分野	音訳による朗読サービス
受賞者名	柴田町朗読ボランティア「結」	主な対象	視覚障害などで文字を読むのが不自由な方
活動名称	広報紙等の音訳録音・配布、朗読ボランティア、デイサービス施設での対面朗読等	団体の規模（団体の場合のみ）	16名
こんな活動です	音訳中心のボランティアですが、自分達も楽しんで行なっています。		
連携している団体等	小学校、図書館、社会福祉法人、行政（保健・福祉部局）		

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成5年発足以来、視覚障害者の方の読書活動・情報環境向上のための支援として、各家庭に配布されている県や町、議会、社会福祉協議会等が発行する広報誌等を音訳してCDに録音し希望者に配布しています。 ○ 町内小学校で福祉教育の一環としてボランティア活動の紹介を行なうとともに、実際に録音を体験してもらい、それをCD化して子どもたちに届けています。 ○ 町福祉協議会や町図書館等にボランティア登録をし積極的に行事に参加しています。 ○ デイサービス施設に出向いての対面朗読サービスや、希望者には依頼図書（小説・郷土資料等）の録音作成などを行なっています。
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会員16名を3グループに編成し、毎月2回交代で音訳録音を実施しています。
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚障害者の方に、情報提供格差の解消と町民としての一体感と生きがいを持ち続けるための一助となっている。

活動の様子

	
音訳の様子	音訳と編集の様子

プロフィール

所在地	秋田県秋田市	活動分野	文化、障害者と地域の交流をサポート
受賞者名	秋田すずめの会	主な対象	障害種は問わない
活動名称	秋田すずめの会	団体の規模（団体の場合のみ）	会員 25名（障害者の家族） 24名（大学生） 3名（大学教員等） 13名（障害者）
こんな活動です	障害があってもなくても ♪みんなで なかよく いつまでも♪		
連携している団体等	文化芸術活動を行う団体、秋田大学の学生及び教員		

活動の説明

①活動内容	<p>○2003年以降15回連続で参加している、とっておきの音楽祭（宮城、6月開催）にむけて音楽クラブが精力的に活動している（4～5月に週1回）。また、会のパンフレットや会報であるすずめ通信（年1回）を配付し、会の活動を周知するよう努めている。1993年には「すずめの文集～障害児とともに生きる母親の手記～」、1999年には「ふれあいボランティア」を発行し、活動を紹介している。</p> <p>○主な年間活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 大学生の入学後、顔合わせ会実施 音楽クラブ活動開始 5月 菜の花バザー（大湯村）出店 ※各バザーに向けて、家族班が集まって、手作りで製品を作る（月3～4回） 6月 とっておきの音楽祭（宮城県仙台市）に参加 7月 学生企画“ヤートセを楽しもう” 8月 ふれあいバザー（秋田市）出店 9月 研修旅行（1泊2日） 11月 学生企画“音楽を楽しむ” 12月 成人を祝う会&クリスマス会 2月 春のお祝い会（大学生を含む会員の卒業を祝う）
②活動体制	<p>○家族班と協同班（学生中心）からなり、それぞれに会長（協同班は代表）等の役員がいる。各班の役員が相談しながら、活動を進めている。</p> <p>○全体では、主に月1回（土日などの休日）活動している。支援者として、秋田大学学生と教員、家族が協力しているため、活動は主に秋田大学を会場に行われている。大学生の支援体制が確立しており、大学3年生が毎年リーダーとなり下級生に確実に引き継がれて運営されている。</p>
③活動の効果等	<p>障害者本人のみならず、その家族やサポートする学生たちにとっても、会の活動はそれぞれの生活の中に自然に溶け込んでおり、自宅以外のもう1つの大切な「居場所」になっている。大学生にとっては、この活動を通して特別支援学校教員を目指す動機付けにもなっている。活動は主に秋田大学を会場に行われているため、特別支援学校教員を目指す大学生だけでなく様々な学生が会に参加しており、大学生の障害者理解にもつながっている。</p>

活動の様子



「とっておきの音楽祭」で日頃の練習成果を披露



ヤートセにもみんなで挑戦

プロフィール

所在地	山形県山形市	活動分野	スポーツ、文化
受賞者名	山形市身体障害者福祉協会	主な対象	身体障害
活動名称	障がい者生きがい創出活動	団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 689人
こんな活動です	みんな輝け いきいき人生応援		
連携している団体等	企業・事業所、行政（保健・福祉部局）、山形県障害者スポーツ指導者協議会、高校生ボランティア		

活動の説明

①活動内容	<p>当協会では、みんなが輝きながら、いきいきと豊かで楽しい人生を送ってもらうため、スポーツ大会の開催をはじめ、地域文化祭での作品展示会や健康講座の開催など幅広く活動しています。</p> <p>スポーツ系の活動では、例年、山形市障がい者スポーツ大会や山形市障がい者水泳競技大会の開催のほか、山形県障がい者レクリエーション大会に参加し、体力向上や会の親睦を図っています。</p> <p>特に、山形市障がい者スポーツ大会は当協会にとっての一大イベントで、昨年は秋晴れのもと136人の障がい者が大会に参加し、爽やかな汗を流しました。競技種目は、60m走などのトラック競技や立ち幅跳び、フライングディスク、シューティングボールなどのフィールド競技のほか、パン食い競争や紅白まり入れといったみんなが楽しめるレクリエーション的な競技も取り入れています。障がいの種類や程度が様々な仲間が集まって、1つのことを成し遂げたときの達成感や充実感はかけがえのないものであり、生きる喜びを与えてくれる大切なイベントです。</p> <p>文化系の活動では、地域の文化祭の中で障がい者の作品展示会を開催し、地域の方との交流を図りながら、絵画や書道、手芸など日頃の成果を発表しています。また、何といても健康が一番ですので、毎年、健康講座を開催し、みんなが健康で長生きできるよう自分の体と向き合う機会を作っております。</p>
②活動体制	<p>スポーツ大会は当団体役員を中心に大会実行委員会を組織し、開催しています。運営には、高校生ボランティアも参加し、世代や障がいの垣根を超えた交流を図っています。その他、水泳競技大会、レクリエーション大会、文化祭作品展示会、健康講座では役員会を開催し、会長を中心に各役員が役割分担しながら実施しています。</p>
③活動の効果等	<p>スポーツや文化活動を通して、障がい者の機能の回復や体力の維持増強を図るとともに、協調性、自立更生の意欲の向上や一般の方との交流による障がい者の社会参加を促進しています。</p>

活動の様子



山形市障がい者スポーツ大会



文化祭作品展示会

プロフィール

所在地	栃木県足利市	活動分野	スポーツ、文化、料理、フィールドワーク
受賞者名	栃木県足利市教育委員会事務局生涯学習課 助戸公民館青少年学級「あおぞら青年学級」	主な対象	知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、その他の障害
活動名称	あおぞら青年学級	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局員数3人 会員数65人
こんな活動です	みんなが一つの輪になって 助け合おう・励まし合おう・ともに歩もう		
連携している団体等	特別支援学校、NPO 法人、社会福祉法人、行政（教育委員会）、ボランティア団体		

活動の説明

①活動内容	<p>障害のある方の社会への参加機会の提供を目的に、昭和 60 年に、当時の中学校の先生の声掛けにより開設されました。6月～3月の月1回、日曜日の午前中に活動しています。本市の社会教育において、唯一の障害者を対象とした学級です。</p> <p>活動内容は、軽スポーツ、ミニコンサートなどの余暇活動や、自然観察会、工作体験などの文化・趣味的な活動、調理実習などの生活に役立つ活動など多岐にわたります。また、年に1回バスを利用した日帰りの館外学習を行っています。</p> <p>学級以外の活動については、地区文化祭において模擬店を出店するほか、講座で作った作品の展示を行っています。</p>
②活動体制	<p>活動体制は、特別支援学校教諭及び元教諭を講師とし、ボランティアとして社会福祉団体関係者、ボランティア団体、市民、元受講生等が参加しており、公民館は事務局を担当しています。音楽や料理等、専門性がより高い活動については、*1 障害者教育に理解がある講師に依頼しています。</p> <p>年間計画は、4月に講師と事務局で会議を行い、前年度の反省や参加者の要望等（アンケート結果）を踏まえ立案しています。</p> <p>*1 例として、小・中学校教諭によるアマチュアバンド等</p>
③活動の効果等	<p>参加者は、様々な人との交流を通じて相互協力や生活に必要な知識や技能を学び、社会人としての自覚を身に付けています。また、学級生を経験した青年が、引き続きボランティアとして学級に参加し活動の準備や受付などサポートを行っています。</p>

活動の様子



流しそうめん



クリーンハイキング

馬場プロフィール



所在地	栃木県佐野市
受賞者名	飯田 チカ
活動名称	知的障害者を対象とした書道教室
こんな活動です	ぼくもわたしもお習字だいすき
連携している 団体等	行政（文化立市推進課）

活動分野
学習、文化
主な対象
知的障害（ダウン症、自閉症）

活動の説明

①活動内容	<p>平成 24 年に知的障害者の保護者の要望を受けて始まった書道教室で、市内に在住する知的障害者を対象に、書道に親しむことを通して文字を書くことにより自分を表現する喜びを体感してもらうことを目的としている。日にちは固定ではないが、毎月 1 回市民活動センターにおいて無報酬で教室を開催している。現在は 7 名の生徒が在籍しており、毎回与えられた課題について思い思いに練習している。</p> <p>このほか、2 年に一度、市役所のそばにある市民ギャラリーで「ぼくもわたしもお習字だいすき」と題して作品展を開催しており、生徒にとっては、それに向けて作品制作を行うことが、書道を継続するための大きなモチベーションとなっている。他人に観てもらえるということも、喜びを感じる機会となっている。</p>
②活動体制	<p>本教室を主宰する飯田チカ氏が講師として生徒たちを指導している。生徒たちの保護者も教室の運営や市民ギャラリーでの作品展の際の展示運営にも積極的に協力している。</p>
③活動の効果等	<p>教室が始まった頃は落ち着いて文字を書くことができず、あちこちに動いてしまい騒がしい状態が生徒たちに見られた。しかし、文字を書くことに慣れ、興味が高まり、それに伴い書道も上達していくためか、集中して筆を振るようになった。教室に通うことが生徒たちの楽しみとなっている。</p> <p>加えて、生徒たちが楽しく取り組む姿が保護者の心にも喜びを与えているようで、作品展の際は、保護者同士が和気あいあいと笑顔で協力している姿が見られた。</p>

活動の様子

	
書道教室の風景	作品展「ぼくもわたしもお習字だいすき」の際の展示風景

プロフィール

所在地	埼玉県川越市	活動分野	文化
受賞者名	特定非営利活動法人ストロベリーハート	主な対象	知的障がい
活動名称	知的障がい者の音楽グループの音楽活動支援	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局 1名 正会員 16名 賛助会員等 98名
こんな活動です	音楽活動支援、会報誌による啓発活動、相談事業		
連携している団体等	NPO法人、企業・事業所、社会福祉協議会 行政（保健・福祉部局、県地域振興センター）		

活動の説明

①活動内容	<p>知的障がい者(児)の音楽活動を通じ、地域の人々への障がい者(児)理解を深めるとともに、知的障がい者(児)一人一人に地域社会の一員として生涯にわたり心豊かに生きる力を育むことを目的に、知的障がい者による音楽グループ「いちご」を含む3団体の音楽活動を支援している。</p> <p>音楽活動の支援においては、演奏技術の向上のみならず、メンバー間の意思疎通が必要な協奏が重要になってくるが、特別支援学校の元音楽教諭などがキーボードや打楽器等の指導にあたることで、メンバーの技術が向上している。</p> <p>また、100名以上の観客を集める主催コンサートや、高齢者福祉施設等への訪問コンサート等を企画・運営することで、音楽グループとして練習の成果を発揮するとともに、観客からの賞賛を受けることによって、メンバーの自信へとつながり、自立した生活を目指すようになってきている。</p> <p>さらに、コンサートの様子や来場者の感想、障がい者・保護者の感想等を掲載した会報誌「ストロベリータイムズ」を年2回発行し、近隣住民や市役所・県関係機関等へ配布することで、知的障がい者への理解を深める啓発活動を行っている。</p> <p>その他にも、障がい児に関する専門知識を持つ事務局職員が、会員及び一般の知的障がい者の自立支援、子育て・教育相談を実施し、障がい者家族の支援を行っており、団体の活動を広めるきっかけとなっている。</p>
②活動体制	<p>川越市内にあるスタジオ兼事務所「音楽工房」において、音楽グループへの活動支援を週1～2回程度実施している。将来的には音楽作業所の設立を目指しており、健常者の音楽グループとの共演・交流を積極的に支援し、演奏地域での認知度向上、演奏技術の拡充を図っている。また、地元企業による会報誌への広告掲載やコンサートの後援等、多くの支援により活動を継続することができている。</p>
③活動の効果等	<p>前身の任意団体を含め16年にわたって、コンサート活動や会報誌による広報活動を継続することにより、地元の新聞等に取り上げられることも増え、年々知名度が上がり、コンサートの来場者や依頼の増加につながっている。</p>

活動の様子



来場者が100名を超えた主催コンサート



老人福祉センターにおける訪問コンサート

プロフィール

所在地	千葉県習志野市	活動分野	文化
受賞者名	むつみおもちゃ図書館	主な対象	障害のある子供
活動名称	むつみおもちゃ図書館（あったか大久保ひろば自主事業）	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局員数：7名 会員（登録）数：84名
こんな活動です	おもちゃの貸し出し・遊び場の提供 音楽活動など		
連携している団体等	文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人		

活動の説明

①活動内容	<p>おもちゃで遊ぶ場所を設け、貸し出しも行う「障がいのある子どもたちが楽しくおもちゃで遊べるように」との考えのもと、おもちゃ図書館を基盤に活動しています。その他にも、合唱や楽器演奏を行う音楽活動、接客の仕事の体験を目的に行う模擬喫茶、様々な材料を使用して自分の作りたいものを作る工作教室、メンバーとの交流の場となっている芋掘りや宿泊型の野外活動、メンバーのプラレールコレクションの展示であるプラレールレイアウトなどの活動を行っています。</p> <p>「できるときに・できるひとが・できることを」をモットーに、メンバーが他のメンバーをサポートするなど、参加者同士で協力しながら積極的に活動に取り組んでいます。</p> <p>特に音楽活動は、メンバーが毎回精力的に練習に取り組み、楽しみながら活動しています。ダンスや手話なども取り入れ、音楽を中心に様々な表現にも挑戦し、市が開催するイベントでの発表を毎年行うことは、音楽を通して多くの方とコミュニケーションをとる機会となっています。</p>
②活動体制	毎月第1、第3日曜日に活動を行っており、運営は保護者とボランティアが行っています。
③活動の効果等	<p>メンバーが挑戦したいことや得意分野を可能な限り活動に反映していることは、本人たちの自主性を伸ばし、自信につながっています。また、音楽活動に限らず、さまざまな活動をとおして仲間と協力し、お互いを認めあいながら豊かに成長する姿が見られます。</p> <p>毎回の活動では保護者やボランティアを含め10名以上の参加がある中で、障がいのある方の生涯学習の場以外にも家族の交流の場にもなっています。</p> <p>また、市主催の福祉ふれあいまつりでの音楽発表や、市内のイベント（福祉施設等主催）でのバザー出店、地域の方々の協力のもと読み聞かせや芋掘り等を実施するなど、地域活動を活発に行っています。</p>

活動の様子



プロフィール

所在地	千葉県流山市	活動分野	学習, スポーツ, 文化, 離職者の就労支援
受賞者名	千葉県立特別支援学校流山高等学園親の会 KOYO クラブ	主な対象	知的障害 (流山高等学園の卒業生と在校生)
活動名称	千葉県立特別支援学校流山高等学園 親の会 KOYO クラブ	団体の規模 (団体の場合のみ)	役員・理事: 37名 会員: 238名 ※平成30年11月10日の実績
こんな活動です	FACE to FACE — “顔が見える関係” を大切に, そして知的障害をもつわが子にたくさんの笑顔を!		
連携している 団体等	特別支援学校, PTA, 企業・事業所		

活動の説明

①活動内容	<p>私たちは「親の会」の活動の一環として、知的障害を持つ本人たちの「生涯に亘る生活の質(QOL)の向上」のために重要な余暇支援・自立支援を積極的に行っています。</p> <p>◆本人を対象にしたサークル活動 保護者がサポートをしながら様々なサークル活動を行っています。(バスケットボール(9名), サッカー(11名), ソフトボール(20名), 音楽(10名), 鉄道旅行(22名), 和太鼓(13名))</p> <p>◆本人の会「絆～ふれあいフレンドクラブ～」 参加者が企画立案し、本人たち主体で行うイベントです。年8回ほど実施。 (平成29年度実績: 先生と語ろう会, ナイトボウリング, 筑波大学授業体験・見学, 焼き肉食べ放題ランチ会, クリスマス会, お花見, 女子会)</p> <p>◆本人対象勉強会 自立に向けたテーマで年1回実施。 (開催実績: 感情コントロール講座, スマホ・ケータイ安全教室, 社会人のマナー, よい対人関係をつくるために, お金の管理講座など)</p>
②活動体制	サークル活動, 本人の会とも年間を通した活動計画を立て, それに基づき活動をしております。保護者だけでなく, 流山高等学園の先生方や以前, 流山高等学園にいらした先生方, 福祉施設等の関係機関の方々にも指導者・支援者となっていただき, 活動しています。
③活動の効果等	仲間と充実した余暇を過ごすことで, 社会への参加意欲の向上やストレス発散などの効果があり, 安定した就労生活・家庭生活を送ることができています。 新しいメンバーや指導者を迎えることが, 人間関係の幅を広げることにつながっています。 また, 他の地域にある高等特別支援学校でも卒業生を対象にした同様の活動を始めており, 見学依頼や活動開始にあたっての相談等も多く寄せられています。

活動の様子

 		 
サークル活動	本人の会	本人対象勉強会

プロフィール

所在地	東京都調布市	活動分野	スポーツ、文化
受賞者名	調布市教育委員会教育部社会教育課	主な対象	知的障害
活動名称	①杉の木青年教室、②遊 ing、③のびのびサークル	団体の規模（団体の場合のみ）	<杉の木青年教室> 社会教育課職員2人、ボランティア22人 <遊 ing> 社会教育課職員2人、ボランティア16人 <のびのびサークル> 保護者12人、ボランティア4人、指導員7人
こんな活動です	障害のある方を対象に、スポーツや文化活動、レクリエーション等を行っています。		
連携している団体等	小学校、スポーツ団体、文化芸術活動を行う団体、企業・事業所、地域団体		

活動の説明

①活動内容	<杉の木青年教室> 中学校特別支援学級を卒業した知的障害のある方を対象として、毎月1回、ポッチャなどのスポーツや絵手紙・料理教室、バスハイク等の活動を行っています。また、年に1度、地域で活動する団体との協働事業として「杉の木青年教室ディスコパーティー」を開催し、登録者以外の方も参加できる公開事業として、市内外の多くの方々からご参加いただき、皆で音楽に合わせてダンスを楽しんでいます。 <遊 ing> 特別支援学級に在籍する児童・生徒を対象に、毎月1回（4・8・1月を除く）、タグラグビーなどのスポーツや野菜収穫等の活動を行っています。 <のびのびサークル> 特別支援学級・学校の在籍者及び卒業生を対象に毎月2回程度、ダンスやリトミック、バスハイク等の活動を行っています。
②活動体制	<杉の木青年教室・遊 ing> 調布市教育委員会社会教育課職員が企画し、ボランティアとともに運営を行っています。 <のびのびサークル> のびのびサークルに所属する参加者の保護者やボランティア、指導者が協力しながら運営しています。
③活動の効果等	<杉の木青年教室> 参加されている方は、それぞれ得意不得意がありながらも、時には参加者同士で助け合い、ボランティアの方々の協力も得ながら、和気あいあいとした雰囲気を楽しむことができる機会となっています。 <遊 ing> 学校とは異なる場所や環境で、参加メンバーとともに様々な活動を行うことで、集団行動や他者との関わりを学ぶ機会となっています。 <のびのびサークル> メンバーと一緒に活動を行うことで、協調性を身に付けるとともに余暇活動の場となっています。

活動の様子

		
<杉の木青年教室>ディスコパーティー	<遊 ing>タグラグビー	<のびのびサークル>リトミック/ダンス

プロフィール

所在地	東京都葛飾区
受賞者名	大滝 敏市
活動名称	かつしか教室
こんな活動です	かつしか教室は知的障害者の方の仲間づくりや余暇活動を支援する場です。活動を通じて、参加する方々が緩やかでも社会的自立を目指せるよう願って活動しています。
連携している団体等	文化芸術活動を行う団体、行政（教育委員会）

活動分野	学習、スポーツ、文化
主な対象	15歳以上の知的障害のある区内在住、在勤者（ただし、特別支援学校高等部1・2年生を除く）

活動の説明

①活動内容	<p>知的障害者のためのレクリエーション事業です。参加する知的障害者が心身の緊張をほぐし、日々の活力を得られるような活動を標榜しています。</p> <p>定員は1会場65人で、区内3会場で実施。平成30年度受講生は182人です。（5月末日現在）。</p> <p>かつしか教室は5月から月1回、年間11回活動しており、3月に修了式を行います。大半は毎年継続して申し込んでおり、知的障害者のかけがえのない居場所事業となっています。</p> <p>活動は大きく分けて、外プログラム（1泊2日の旅行と遠足）と各会場で行う通常の活動があります。通常活動は参加者の自主性を育むため班制度を採用し、スポーツ、音楽、工作等を実施しています。また、ダンスや書道等の区民サークルを講師として招いたり、地域のイベントに参加したりして一般区民の方との交流を図るなど、障害者への理解を深める活動も試みています。</p>
②活動体制	<p>通常活動は、主任講師1人、常任講師7人でプログラム企画と運営に当たっています。外プログラムの際は、講師を増員し、看護師も依頼するなど、安全に配慮しています。</p> <p>カリキュラムは3会場統一ではなく、それぞれマンネリ化しないよう、劇やバンド演奏等芸術鑑賞なども取り入れ、内容を工夫しています。</p> <p>講師のスキルアップのため、毎年各会場1回研修を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>職場や社会で、時として理不尽な対応を受ける知的障害者にとって、仲間とともに楽しく活動することができるかつしか教室は、彼らが日常の緊張から解放され、新たな生活の活力を得られる貴重な場となっています。</p> <p>また、一般区民との交流プログラムを通して理解者が増えてきており、それによって彼らの行動範囲も広がり、障害者への偏見をなくす効果が見られています。</p>

活動の様子



クラブの発表会



皆で決めよう（運動会種目決め）の一幕

プロフィール

所在地	東京都国立市	活動分野	学習
受賞者名	障害をこえてともに自立する会	主な対象	主に知的障害
活動名称	喫茶コーナーの運営活動を通じた青年期の学びと共生のまちづくりに向けた取組	団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 122名
こんな活動です	障害をこえてともに働く喫茶店		
連携している団体等	高等学校、公民館、行政（教育委員会）、社会福祉協議会		

活動の説明

①活動内容	<p>本会は、障害をこえて、関わる人が自立について考え、交流する学びの場を持つこと、そしてともに働き生活できる場づくりを目指すことを主な目的として活動をしている。具体的には、1981年から取り組んでいる「喫茶わいがや」という喫茶店の運営が本会の主な活動である。近年では上述の目的以外にも、「喫茶わいがや」の運営に関わる若者たちの生きづらさについて言及されてきたこともあり、「障害」だけではなく多様なあり方や生き方を受け止める場づくりへと活動の場を拡げている。</p> <p>「喫茶わいがや」は、国立市教育委員会の理解と協力のもと、国立市公民館を拠点として地域との関わりを持つための活動にも取り組んでいる。特に、公民館主催事業である「しょうがいしゃ青年教室」のコースの一つとして、障害のある若者が喫茶業務に体験・従事する「喫茶実習」を実施している。喫茶コーナーでの就労体験学習とともに、障害のある若者と地域住民との交流が生まれる実践を積み重ねてきた。</p> <p>他にも、公民館利用者が主体となっている「くにたち市民文化祭」でのコーヒーサービスや、地域住民が幅広く参加する「くにたち市民祭」、市内に校舎を構えるNHK学園高等学校文化祭等に出品・参画するなど、本会の取組は市内の幅広い年齢層に認知されている。様々な機会を通して、「喫茶わいがや」について知ってもらうこと、多様な形の参加を拡げていくことが、共生の地域づくりを進める上で大切だと考えている。</p>
②活動体制	<p>本会は、母体となる「障害をこえてともに自立する会」（122名）のうち、お店の運営に直接かかわる若者の運営スタッフによって役員が構成されている。その他、市内の社会福祉協議会にボランティア体験の一つとして「喫茶わいがや」の活動を受け付けてもらっている。全活動を通して、公民館の青年室担当職員がオブザーバーとして関わっている。その他、指導者と呼ばれるような人員は配置されていない。</p>
③活動の効果等	<p>「喫茶わいがや」は、その活動に関わることを通して、障害に対する見方や考え方を個人が変化させていく経験を育んできた。それは特定の指導者によって理念を教育するものではなく、個人が障害について考え、自らのあり方や生き方を捉えかえし、未来に向けて変化し続ける学習としての性格を強くもつ。</p>

活動の様子



看板娘がお店でまっています。



ハンドドリップで淹れたコーヒーをどうぞ。

プロフィール

所在地	東京都日野市
受賞者名	名取 潮子
活動名称	日野市障害者訪問学級
こんな活動です	学び続けたい障害者を、一人一人の希望に合わせて 支えを継続しています
連携している 団体等	特別支援学校、行政（教育委員会）

活動分野	学習
主な対象	一人で外出することが困難で学習したいという意欲を持つ障害者

活動の説明

①活動内容	<p>日野市障害者訪問学級は、中学卒業後も学びたいという障害者の思いから1981年（昭和56年）に始まった。名取氏は、受託団体である「日野市障害者問題を考える会」の代表を1995年（平成7年）から務めている。</p> <p>「学習したい」という意欲を持つ、市内在住及び入院中の障害者（長期間病気等の者も含む）の学習機会を拡大し、自立をめざし積極的な社会参加を促進することを目的とする同学級は、2018年度（平成30年度）学級生13名、講師15名の体制で活動している。</p> <p>年に一度、事業紹介と講師育成のための制度説明会を開催、事業のPRと学級生の掘り起こし及び講師・後継者の育成をしている。また、講師・保護者の代表とスタッフで運営委員会を構成し、個別の授業計画や年間の事業について協議し、さまざまな形で学級生と講師のつながりを強めるしかけづくりをしている。年度末には市と会から修了証を渡し、努力を讃えている。</p>
②活動体制	<p>活動は年間を通して学級生宅で行われる授業と年1回の移動教室（山梨・清里に保護者、講師とともに行く）のほか、広く学級生・講師のつながりを強めるために他の学級生の授業風景の様子を動画で見合うなどの交流の場も設けている。学級生宅での授業の様子は、授業記録のノートに詳細に記載し、保護者にわかりやすく伝えるようにしている。講師は、学級生の障害に合わせて、複数配置もしており、重度化している受講生への対応のため、特別支援学校退職教員と教育委員会と同会共催で行われる「講師養成講座」を受けた一般市民の講師から構成される。</p>
③活動の効果等	<p>本事業は、障害者福祉サービスと異なる側面で障害者の日中活動の場として、また学習意欲の向上と社会参加を得ることができるもので、生きがい創出のうえでもたいへん効果的な事業であり、学級生や保護者の満足度も高い。</p>

活動の様子



遠足（東京・府中市郷土の森公園）



福祉機器を使ってコミュニケーションにつなげる授業

プロフィール

所在地	神奈川県逗子市
受賞者名	成田 文忠
活動名称	障がい者へのピアノ指導 「小さな小さな音楽会」の開催
こんな活動です	それぞれのペースで 楽しくピアノのレッスンをしています。
連携している 団体等	社会福祉法人、企業・事業所

活動分野	文化
主な対象	知的障がい、自閉症、 身体麻痺などのある方

活動の説明

①活動内容	<p>障がい者一人ひとりに合わせた指導法でピアノを指導し、その発表の場として「小さな小さな音楽会」を開催しています。</p> <p>ピアノの指導をはじめたきっかけは、障がいのある息子のピアノ指導を担当していた先生が遠方へ引越すこととなったことです。昔独学で習得したオルガンの弾き方を思い出しながら、息子にピアノを教えるはじめると、それを知った自閉症児やダウン症児の保護者から頼まれ、会社勤務の合間を縫ってレッスンを持つようになりました。</p> <p>様々な障がいのある生徒たちにピアノを教えることは容易ではありませんでしたが、それぞれの子どもをしっかりと見つめ、「できないこと」ではなく「できること」を探しながら、根気強く指導を続けました。鍵盤に色分けしたシールを貼る、ひらがなを使う、利き指を見つける、それぞれが弾きやすいように編曲するなど工夫を凝らし、生徒たちが音楽を楽しめるようにという思いを第一に取り組んでいます。</p> <p>昭和63年には「第1回小さな小さな音楽会」を開催。はじめのうちは、公民館の1室を利用した小さな会場での発表でしたが、今では500席以上を設ける大きなホールで観客を楽しませるほどのイベントで、2018年4月には第31回目の音楽会で約30名の生徒が発表の舞台に立ちました。</p>
②活動体制	<p><ピアノの指導> 当初は息子のためにひとりで始めた活動でしたが、障がいのある子を持つ保護者からの依頼により生徒を持つようになりました。その後、テレビ番組での放送や銀座での音楽会の開催をきっかけに、指導の手伝いをしたいという希望者が集まり、今では5教室以上を展開しています。</p> <p><音楽会の開催> ボランティア約40名（友人、障がい者福祉施設職員、居住している団地のサロンスタッフ等）との協力により開催しています。</p>
③活動の効果等	<p>障がいのある生徒にとって、大きな舞台での発表を経験することは、喜びを感じ、自信を持つきっかけとなる大きな経験であり、自立への足掛かりとなっていると思います。また、音楽会の入場料は無料としているため、障がい者に馴染みのない人々が足を運びやすく、障がいや障がい者への理解を深める機会となっています。</p>

活動の様子



プロフィール

所在地	神奈川県綾瀬市	活動分野	障がい者支援
受賞者名	綾瀬市手話サークルあやの会	主な対象	聴覚障がい者
活動名称	聴覚障がい者との交流・手話学習、聴覚障がいに対する理解を深める啓発活動、手話の普及活動	団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 43名
こんな活動です	手話の勉強会・イベントを通して、聴覚障がい者との交流や支援を行っています。		
連携している団体等	小学校、中学校、高等学校、社会福祉法人、行政（保健・福祉部局）、綾瀬市聴覚障害者協会、神奈川県聴覚障害者協会、綾瀬市ボランティア連絡協議会、神奈川県手話サークル連絡協議会		

活動の説明

①活動内容	<p>定例学習会の中で聴覚障がい者より手話を学び、綾瀬市聴覚障害者協会と共催のイベントを企画するなど、障がい者の社会参加を支援するとともに、聴覚障がい者との交流を通して聴覚障がいに対する理解を深める活動を行っています。</p> <p>平成29年度は横須賀の記念艦「三笠」の見学、平成30年度は江戸東京博物館と浅草寺の見学、神奈川県総合防災センターでの体験学習を企画しました。社会福祉法人綾瀬市社会福祉協議会主催の「福祉ふれあいまつり」や綾瀬市ボランティア連絡協議会主催の「春の交流会」にも協力し、「市民の歌」の手話を創作し、手話コーラスや手話による絵本の読み聞かせを発表しました。</p> <p>また、綾瀬市社会福祉協議会が開催している小学生・中学生を対象とした福祉教室や、綾瀬市ボランティア連絡協議会主催のボランティア養成講座では、会員である手話通訳者が指導者として協力し、聴覚障がいに対する理解を深める啓発活動・手話の普及活動を行っています。</p>
②活動体制	<p>定例活動として毎週、会員の手話学習会・交流会、また、障がい者支援事業として一般市民も対象とした手話学習会や聴覚障がい者との交流を行っています。そのほかに平成29年度には「聴導犬」、「火災発生時の初期対応」をテーマに講演会を企画しました。</p> <p>定例活動以外では、綾瀬市聴覚障害者協会と共催で社会見学を開催するほか、綾瀬市社会福祉協議会、綾瀬市ボランティア連絡協議会、神奈川県聴覚障害者協会等の事業にも協力しています。</p>
③活動の効果等	<p>社会見学や講演会、交流会等を開催することにより、聴覚障がい者への情報提供や生涯学習・社会参加を支援するとともに、健常者と障がい者の交流を積極的に進めています。手話学習や障がい者との交流、ろうあ運動を通して手話通訳の人材育成を行い、これまで複数名の有資格者が誕生しています。</p> <p>また、小学生・中学生を対象とした手話学習やボランティア養成講座において、会員である手話通訳者を中心に協力し、障がいに対する理解を深める啓発活動を行っています。養成講座を受講したことで、より手話に関心を持つきっかけとなり、サークル活動を始めた方もいます。</p>

活動の様子



活動中の写真



あやせ福祉ふれあいまつり

プロフィール

所在地	新潟県新潟市
受賞者名	阿部 雅子
活動名称	新潟県難聴児を持つ親の会
こんな活動です	聴覚障害のある児とその家族が集い、 楽しく活動したり情報交換をしたりしています。
連携している 団体等	小学校、中学校、特別支援学校

活動分野	学習
主な対象	聴覚障害のある児とその家族

活動の説明

①活動内容	<p>新潟県難聴児をもつ親の会は、昭和40年代に、新潟市立礎小学校難聴通級指導教室に通っていた児童の保護者を中心に設立された。現在の会員数は約30名。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 設立後は、難聴児教育の啓発と施設設備の充実、難聴児の福祉の充実のために、保護者同士の勉強会や情報交換、難聴児童生徒が集まる活動、また行政などへの働き掛けを行ってきた。 ○ 全国難聴児を持つ親の会と連携を取り、難聴児教育や福祉の充実に関する情報交換を行うとともに、新潟県の難聴児教育の活動について全国に発信してきた。 ○ 児童生徒の活動としては、「親子キャンプ」、「きこえの相談会」などを行ってきた。最近では、年5回程度、土日に「ゲーム大会」や「ものづくり」など、難聴児同士でかかわる体験活動を行っている。 ○ 成長した当事者同士が集まって活動を行っていた時期もあった。現在は特に活動はしていないが、先輩としてボランティアで活動に参加する当事者もいて、よきモデルや話し相手となっている。 ○ 全国難聴児を持つ親の会が年4回発行する機関紙を会員に送付し、情勢について会員に知らせている。以前は、新潟独自の活動の便りや冊子を発行していた。
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「新潟県難聴児を持つ親の会」は、難聴児を持つ親と、会の趣旨に賛同し、親子を支援する賛助会員で構成されている。 ○ 会の役員は、会長、副会長、会計ならびにその他の役員で構成され、目的達成のために事業を計画、実施している。
③活動の効果等	<p>難聴児教育の充実のために行政などに働き掛け、新潟県の難聴児の教育、福祉の充実に貢献してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の小中学校に通っている難聴児は、学校の中で難聴があるのは自分一人ということが多い。難聴通級指導教室に通級しても、個別指導の形態で指導を受けているため、同じ難聴を持つ友達や先輩、後輩と巡り会う機会がほとんどない。しかし、会の活動に参加することによって、自分と同じ困難を持つ友達、先輩、後輩の存在を知り、交流することができている。 ○ 保護者にとっても、同じ難聴児を持つ親同士で情報交換を行う機会がほとんどない。会の活動に参加することで、難聴児を持つ親しか分からない苦勞について話し合う、各学校での支援の状態について情報を得る、先輩の保護者からアドバイスを受ける等ができ、心の支えとなっている。 ○ 現在、聾学校在籍児童が年々減少しており、一人学級の学年も多い。聾学校の児童も会の活動に参加し、大勢の中で活動する体験をすることができる。聾学校在籍児童と地域の小学校に在籍している児童で、お互いよい刺激を受け合っている。

活動の様子



ポヨヨーン。おもしろーい（楽器体験）



チームの代表がジャンケンポン（ゲーム大会）

プロフィール

所在地	岐阜県瑞穂市	活動分野
受賞者名	特定非営利活動法人ぎふ要約筆記かがり火	学習
活動名称	音声バリアフリー社会を目指して	主な対象
こんな活動です	いつでも・どこでも・だれにでも文字情報を！	聴覚障害
連携している団体等	NPO 法人、行政（保健・福祉部局）	団体の規模（団体の場合のみ）
		50名

活動の説明

①活動内容	<p>1 要約記者の派遣 会員を、岐阜県や岐阜市の要約筆記派遣事業に登録し、派遣依頼に応じている（公費派遣）。また、岐阜市や周辺市町で開催されるイベントへの派遣依頼に応じている（主催者派遣）。さらに、何らかの理由（障害者手帳を不所持・公費派遣の非対象・予算がない等）で公費派遣等を受けられない聴覚障害者に対しては、無料で要約筆記の派遣を実施している（ボランティア派遣）。</p> <p>2 要約記者の養成 岐阜市の要約筆記養成事業（全21回84時間講座）に講師、補助講師、情報保障者を派遣して全面的に協力し、要約記者の養成に努めている。また、自らも出張講座、講習会等を実施している。 ・体験講座、伝達講習会（他の研修で学んだことの伝達）、フォローアップ学習会 など</p> <p>3 要約筆記の普及啓発及び聴覚障害の理解啓発 一般市民向けの講習会等を年に数回開催し、難聴知識の普及や要約筆記の啓発を実施している。また、聴覚障害や聴覚障害者の理解啓発を実施している。 ・聞こえの悩み相談会、小中学校への出前講座、岐阜市人権講座、会報の発行 など</p>
②活動体制	<p>役員7名の体制で、理事会や毎月の例会において活動内容を検討し実施している。また行事執行にあたっては、理事をリーダーに会員からなるチームを編成して実施している。</p> <p>要約筆記養成講座の講師等は、講師研修会を受けて、講師の資格を得た者が担当している。</p>
③活動の効果等	<p>多くの要約筆記奉仕員や要約記者を養成することで主催者派遣やボランティア派遣依頼の増加に対応できるようになり、利用する聴覚障害者数や利用機会も広がっている。</p> <p>また、派遣される要約記者の技術が向上し、聴覚障害者への支援に対する自覚や責任感も強まった。人権講座での講演や出前講座により、一般の方への「手話ではなく文字情報支援を必要とする聴覚障害者（難聴者・中途失聴者）と要約筆記支援」への理解が広がつつある。</p>

活動の様子



要約筆記養成講座（手書き要約筆記付き）



「防災学習～音声バリアフリーを旨として」（パソコン要約筆記付き）

プロフィール

所在地	静岡県藤枝市	活動分野	学習、スポーツ、文化、旅行
受賞者名	藤枝市若松青年学級	主な対象	知的障害
活動名称	藤枝市若松青年学級	団体の規模（団体の場合のみ）	32人（会員を含む）
こんな活動です	社会人の豊かな生活と仲間作りにむけて活動しよう		
連携している団体等	特別支援学校、公民館、行政（教育委員会）、静岡市・焼津市の障害者青年学級団体		

活動の説明

①活動内容	1984年より開講。活動には毎年、25名前後の特別支援学校を卒業した障害のある社会人が参加しています。内容としては、ボウリングやグラウンドゴルフ、ハイキングなどのスポーツを行ったり、年に一回のスポーツ大会を他の障害者青年学級団体（静岡市、焼津市等）と合同で実施したりしています。他にも、バーベキューや調理実習、買い物、手芸、カラオケなどの余暇活動の充実に関すること、地域のごみ拾い等の社会奉仕活動、年に一度の旅行も行っています。
②活動体制	不定期ですが、一回8:30～15:00の活動を年間22回前後行っており、毎回3～5人の補助員（指導者）が障害のある社会人の活動を支援しています。中心的な活動場所は、静岡県立藤枝特別支援学校の他、「藤枝市文化センター」「藤枝市生涯学習センター」などの市の施設を活用しています。
③活動の効果等	<p>団体開設当初の第1回の参加者数は9人でしたが、次第に参加者数も増え、参加者の居住地も藤枝市以外に広がっています。また、「社会人のマナーを身につけること」「充実した休日を過ごせること」「生活に必要な技能の習熟を図ること」などをねらいとし、多岐にわたる活動内容を設定することで豊かな職業生活へとつながる活動となっています。このように、障害のある社会人にとって貴重な仲間づくりの場となるだけでなく、休日の余暇を充実することのできる場ともなっており、地域での「居場所」として高い成果をあげています。</p> <p>また、30年余り活動が継続されており、障害のある社会人同士が世代を超えて共に活動することができたり、その家族にとっても地域でのつながりを得られたりすることにつながっています。さらには、地域全体にとっても、この活動が長きにわたり続けられていることで、障害者に対する支援活動が地域に根付くために大変重要な存在となっています。</p>

活動の様子

	
一泊旅行（日光東照宮）	調理実習（冷やし中華作り）

プロフィール

所在地	静岡県静岡市	活動分野	学習、スポーツ、文化、支援者向け学習会、調査活動
受賞者名	静岡県障害者就労研究会	主な対象	全障害種
活動名称	障害のある人と大学生が共に学ぶ講座	団体の規模（団体の場合のみ）	25人（事務局・会員）
こんな活動です	生活の中で学び続けることの面白さ、楽しさを知ろう		
連携している団体等	特別支援学校、社会福祉法人、行政（教育委員会）、大学法人、各種団体（障害者青年学級、静岡県（市）手をつなぐ育成会）、就労支援施設等		

活動の説明

①活動内容	<p>2005年より開講。年3回、静岡大学にて開催する講座には、障害のある社会人が60人ほど参加し、大学教員や学生、専門家、企業社員等による講義や演習を行っています。内容例としては、科学・植物・歴史・芸術・外国文化・海外旅行・スポーツ・心理学・ファッション・防災・防犯・CM製作など、多岐にわたります。</p> <p>その他、支援者向け学習会として1997年より国の施策や県内外の実践、講演等、障害者の就労や生活に関する学習会を年5回程度開催しています。実習・就労支援・合理的配慮・発達障害・生涯学習等、幅広い内容に教育・福祉・労働といった多方面からの参加者がいます。</p> <p>さらに、2003年より学校卒業後、5年・10年を経過した方を対象に、進路先の変遷・仕事内容・生活スタイル・余暇活動等についてのアンケート調査を行い、その結果を県内特別支援学校等に提供しています。</p>
②活動体制	<p>2007年度より静岡大学イノベーション社会連携推進機構地域連携生涯学習部門と連携し、同大学公開セミナーとして実施しています。基本的には、始めに仲間づくりの演習を20分程度行い、その後、60分程度の講義や演習を2コマ行っています。10人ほどのスタッフが企画・運営を行い、当日は静岡大学を中心とした学生スタッフ10～30人ほどが司会や「学びのパートナー」として社会人の活動を支援しています。</p>
③活動の効果等	<p>幅広い内容の講座を継続的に行っており、障害のある社会人にとって新しい仲間との出会いだけでなく、貴重な学びの場、余暇活動の場となっており、生涯を通じて様々なことを学び続け、挑戦し続ける姿勢を築くことにつながっています。また、年1回の「本人部会」では、自身が関心事を提案し、その後の講座で学びたい内容を企画することができるため、学び続ける姿勢づくりにつながっています。</p> <p>また、大学との連携により多くの学生が運営や活動支援スタッフとして参加することができ、学生にとっても障害者と関わる機会となっています。</p> <p>さらに、同様の活動が県内他地区、他大学へ広がり、参加者、学生スタッフ、講師を務める地域人材も増えており、県全体にとっても大きな成果を上げている。</p>

活動の様子



防災の学習を侵攻する静岡大学院生



課題について話し合う大学生と受講生

プロフィール

所在地	愛知県名古屋市
受賞者名	西尾 啓江
活動名称	「きもの手話」を考案、難聴者向け着付け講習会等
こんな活動です	着物文化・着付けの普及を通して、障害のある子どもたちの社会自立を促す活動を行っています。
連携している団体等	特別支援学校、図書館、NPO 法人、社会福祉法人、企業・事業所、行政（教育委員会）

活動分野	文化
主な対象	障害のある方全般

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者にわかりやすい「きもの手話」を考案 ・名古屋聴覚障がい者センターにおける難聴者着付け講習会の実施 ・難聴者・身障者着付け補助教本「心のバリアフリー」の寄贈（愛知・岐阜・三重の聾学校の在籍者） ・「きもの手話教本」の寄贈（名古屋市、愛知県図書館等） ・愛知県立名古屋聾学校での着付け講習会実施 ・「車椅子着付け英語版テキスト」のカナダパラリンピック選手団への寄贈 ・名古屋城無料着物体験（障害者・一般）の実施
②活動体制	きもの学院の講師を勤めながら、ボランティア活動として関係の深い聾学校や特別支援学校への講習会から始め、企業の協賛や教育委員会の協力を得ながら、活動の範囲を徐々に広げ、現在、多くの方々から支持を得て活動を広げている。
③活動の効果等	多くの障害者や教育関係者に、着物文化や着付けの素晴らしさを広めることができた。手話を使った着付け講習や、車いすを使用している方への着付け講習など、バリアフリーの視点を取り入れた活動を展開することで、これまで着物と縁遠かった障害のある子どもたちの関心を高め、生涯学習の一助としての役割を果たすことができた。

活動の様子



写真 1

名古屋城 着つけ無料体験活動



写真 2

ゆかたの着付け体験とマナー講習にて
(16~17歳の生徒対象)

プロフィール

所在地	愛知県岩倉市	活動分野	スポーツ、文化
受賞者名	社会福祉法人 岩倉市社会福祉協議会	主な対象	全ての障害児・者
活動名称	障害児・者のスポーツ・音楽による 自立や社会参加等の促進事業	団体の規模（団体の場合のみ）	法人全体職員数 45名
こんな活動です	障害の区別なく一緒にスポーツ・音楽を楽しむ		
連携している 団体等	小学校、中学校、特別支援学校、社会教育関係団体、 スポーツ団体、社会福祉法人、 行政（教育委員会、保健・福祉部局）、日本福祉大学		

活動の説明

①活動内容	<p>スポーツや音楽をとおして、障害児・者の自立と社会参加の促進ならびに、地域住民との交流により、障害への理解を深めることを目的にスポーツフェスティバル、夢コンサートを実施しています。</p> <p>スポーツフェスティバルは、平成15年から始まり、フライングディスクアキュラシーやボッチャ、カローリングなどを障害の特性に合わせてルールを工夫し、誰でも一緒に楽しむことのできるスポーツイベントです。毎年、障害児・者が約50人、ボランティアが約60人の参加により実施しています。</p> <p>夢コンサートは、平成12年から始まり、太鼓、鳴子踊り、歌とダンス、ミュージカルなどのプログラムで色彩や体の動き、鼓動などさまざまな感覚でコンサートを楽しむイベントです。毎年、障害児・者が約70人、ボランティアが約40人の参加により実施しています。</p>
②活動体制	<p>岩倉市障害者連絡協議会、岩倉市ボランティア連絡協議会、岩倉民生委員児童委員協議会、社会福祉法人いわくら福祉会、社会福祉法人尾北しらゆり福祉会を核とし、さらに、スポーツフェスティバルには愛知県障害者スポーツ指導者協議会、夢コンサートには、岩倉青年会議所、岩倉市福祉課が加わり、実行委員会を組織し、企画立案、事業運営を行っています。</p> <p>また、イベント当日には、中学生、社会福祉協議会登録ボランティア団体、市スポーツ推進委員、日本福祉大学の協力があります。</p>
③活動の効果等	<p>①スポーツフェスティバル 障害児・者がスポーツの楽しみを感じ、日常的にスポーツを行うきっかけとなっています。また、障害者間のつながりづくりやボランティアとして健常者が補助をすることで交流し、障害への理解を図っています。</p> <p>②夢コンサート どんな障害があっても参加者がそれぞれ音楽を楽しみ、日常的に音楽に触れるきっかけとなっています。この事業を契機に、出演団体の太鼓や鳴子踊りの団体が、定期的に障害者福祉施設を訪問し、音楽や踊りを楽しむ機会を醸成し、現在も活動が継続されています。</p>

活動の様子



スポーツフェスティバル



夢コンサート

プロフィール

所在地	三重県津市	活動分野	社会教育
受賞者名	一般社団法人三重県ビルメンテナンス協会	主な対象	知的障害
活動名称	三重県障害者技能競技大会（アビリンピックみえ大会）でのビルクリーニング種目の運営・評価	団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 25 団体
こんな活動です	アビリンピックみえ大会ビルクリーニング種目の運営		
連携している団体等	特別支援学校、行政（教育委員会）、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構		

活動の説明

①活動内容	<p>平成22年度に県教育委員会と作業学習に係る技術指導等についての協定を締結し、平成24年度から特別支援学校清掃技能検定を支援しています。障がい者の職業能力の向上に向けた取組を継続的に進め、アビリンピックみえ大会でのビルクリーニング種目を立ち上げました。以降、現在に至るまで大会における運営面での支援を行っています。</p> <p>また、特別支援学校高等部生徒が大会に出場する際は、放課後等に学校を訪問し、窓ふきスクイージーや真空掃除機の使用など様々な清掃技能の技術指導を行っています。</p> <p>この取組は、学校を卒業して社会人になった後も継続しており、勤務時間外にも技術指導を行い、大会での上位入賞を目指しています。</p>
②活動体制	<p>アビリンピックみえ大会では、実行委員1名・審査委員2名の体制で運営に携わっています。加えて、機材の貸出、会場設営等を担っています。</p> <p>また、特別支援学校卒業後の選手においても大会での上位入賞を目指した技術指導を行うことで、生涯にわたって障がい者が目標を持って職業技能の向上に取り組む支援体制を図っています。</p>
③活動の効果等	<p>平成27年「第13回アビリンピックみえ大会」のビルクリーニング種目において、本協会が技術指導を行った選手が「優秀賞（三重県知事賞）」を受賞しました。</p> <p>その後、同受賞者は、平成28年「第36回全国アビリンピック大会」のビルクリーニング種目へ出場しました。学生時代から努力して身につけてきた技能を向上させた結果、全国大会への出場を果たすことができました。</p> <p>今後も、障がいのある方の社会参画と自立を促進するとともに、職業技能の向上という観点から生涯学習を支えていきたいと考えています。</p>

活動の様子

	
アビリンピックみえ大会 審査の様子	アビリンピックみえ大会 競技の様子

プロフィール

所在地	大阪府大阪市	活動分野	スポーツ、文化
受賞者名	ジェネシスオブエンターテイメント	主な対象	身体障害、知的障害、発達障害、難病
活動名称	車いすダンス教室の開催・車いすダンス講演会の開催	団体の規模（団体の場合のみ）	専従職員 2名 会員数 70名
こんな活動です	夢と元気を伝える仕事 楽しむ喜びから創る喜び、そして伝える喜びへ		
連携している団体等	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、PTA、NPO 法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、行政（教育委員会、保健・福祉部局、文化庁）		

活動の説明

①活動内容	<p>① 車いすダンス教室に参加する、支援学級在籍の児童、保護者たちを含めて、障がいのある人もない人も参加者全員が人との触れ合いから、エンパワメントできる場作りを行っています。 支援対象人数:1回開催 約 30名 年間約 50日開催 計 1,500名の参加</p> <p>② 車いすダンス講演会では、障がいのある人とない人が共に社会に貢献する活動として、世界車いすダンススポーツ選手権大会入賞者、アジア大会及び全日本大会優勝者などが、車いすダンスの披露、講話、聴講者への車いすダンス体験などを行い、夢と希望を届ける、学校訪問活動を行っています。2013年より文化庁の文化芸術による子供の育成事業との連携にて、障がいのある車いすダンサーが芸術家として、学校講演会活動を展開している。 支援対象人数:年間 60～80日(箇所) 年間約 15,000人</p>
②活動体制	専従職員、ボランティアなどが中心となり運営を行っている。車いすダンス教室活動では、作業療法士、理学療法士、障がい児親の会、教育機関、ダンス専門家など、様々な立場のメンバーが参加し、共に関わることにより、障がいの重度軽度に関わらず参加が可能となる体制で開催している。
③活動の効果等	車いすダンススポーツ、表現活動を伝える上で、世界選手権大会などでの実績がある技能の高いメンバーたちが21年間ダンスを指導することにより、車いすダンス教室活動に参加してきた子どもたちが成人となって次の支援者に成長していくなど、様々な世代が障がい者のダンス文化芸術活動を支援できる体制になった。また車いすダンス講演会、ダンス出演は、東京オリンピック・パラリンピック関連行事などへの出演においても活躍の機会が拡がり、全国から出演依頼を頂戴できるようになった。

活動の様子



文化芸術による子供の育成事業 小学校車いすダンス講演会



車いすダンス教室メンバー

プロフィール

所在地	兵庫県西宮市	活動分野	社会体験、生活体験
受賞者名	西宮市教育委員会（西宮青年生活学級）	主な対象	18歳以上の知的障害者
活動名称	西宮青年生活学級	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局：2名 登録ボランティア：26名
こんな活動です	障害のあるなしに関わらず、みんな同じ社会人として参加し、学習し、楽しむ場の提供		
連携している団体等	小学校、特別支援学校、公民館、スポーツ団体、文化芸術活動を行う団体、企業・事業所、行政（教育委員会）、ボランティア団体		

活動の説明

①活動内容	<p>昭和48年7月にスタートした西宮青年生活学級は、45年の長きにわたり、知的障害のある青年の居場所づくり・仲間づくりを支えてきた。「①レクリエーション活動を通してさまざまな生活体験をしながら学習する。②中学校特別支援学級卒業生等が、障害を克服して、やる気をもって社会参加する。③障害者の教育を受ける権利を保障し、可能性を伸ばす。」の3つを活動の目的に掲げ、月に1回の活動を実施している。各行事の内容は学級生が意見を出し合って決定し、行事当日もできるだけ学級生が主体となって取り組むことを重視している。</p> <p>年間の活動内容は次のとおりで、毎回100名以上の学級生が集まり、賑わいを見せている。</p> <p><年間の活動内容></p> <p>開講のつどい（5月）、ニュースポーツ体験（6月）、日帰りバスツアー（7月・9月）、室内手作りボウリングやプール（8月）、からだを動かそう（10月）、バーベキュー大会（11月）、カラオケクリスマス会（12月）、成人式と新年のつどい（1月）、あなたは芸術家（2月）、閉講のつどい/次年度行事の話し合い（3月）</p>
②活動体制	<p>地域学習推進課が事務局となり、担当職員2名と西宮福祉ボランティア「グループ雑草」とが協働している。行事当日は、「ヤゴの会」メンバーやガイドヘルパーとも協力している。</p>
③活動の効果等	<p>○長い年月の積み重ねから、学級生自身が自分たちの学級として認識し、自分たちで決めて活動するという意思の発露が見受けられる。また、障害の程度が比較的軽い学級生の中から青年生活学級以外でも活動しようというグループ（ヤゴの会）ができた。（昭和56年9月発会）「ヤゴの会」のメンバーは、兵庫県の本人活動団体「のじぎく会」創設時のメンバーとなっているなど、本人活動の広がりを見せている。</p> <p>○「あなたは芸術家」の行事から「鳴尾スーパーつかげすずむしバンド」が結成された。平成24年には市内のホールでコンサートを開催し、市民との交流・理解促進が深まった。</p> <p>○学級生の家庭環境が垣間見えることがあり、状況に応じて福祉サービスにつなげる場合もある。</p> <p>○兵庫県立阪神特別支援学校、兵庫県立こやの里特別支援学校、兵庫県立芦屋特別支援学校の3校の卒業生に対し、新年度の募集案内を送付し、例年5人から10人程度の新学級生を迎えることで、学級生の世代間交流もできている。</p>

活動の様子

	
6月・ニュースポーツ体験～ボール送り～	2月・あなたは芸術家～絵画コース～



プロフィール

所在地	兵庫県三田市	活動分野	文化
受賞者名	三田市（障がい者交流サロン（きらりんクラブ））	主な対象	知的障害等
活動名称	障がい者交流サロン（きらりんクラブ）	団体の規模（団体の場合のみ）	担当職員 5 名 学級生 21 名 指導者 3 名 他
こんな活動です	みんな一緒、みんなが集う市民センターで、いきいき学ぶ		
連携している団体等	小学校、中学校、社会福祉法人		

活動の説明

①活動内容	<p>多くの市民は、市民講座や市民大学等、持続的に学ぶ機会を得ている。しかし、障害のある方は学校卒業後、学ぶ機会が非常に限られているのが現状であるため、三田市では、音楽活動等により交流の輪を広げ、相互理解を深め、生きがいづくりを目指して「障がい者交流サロン（きらりんクラブ）」を開催している。</p> <p>この教室は昭和 54 年(1979 年)から「ともだち教室」として発足。平成 29 年度は 9 回開催し、延べ 220 人が参加した。</p> <p>対象は市内在住で 18 歳以上の障害のある方で、学習意欲のある方としている。介助者との参加も可能である。</p> <p>現在は、月 1 回第 1 土曜日に市民センターに集まり、音楽活動（合唱や楽器演奏等）や劇の練習などの活動をしている。また、学習発表会やコンサートなどに出演し、学習の成果を発表している。</p>
②活動体制	<p>3 名の講師が、指導及びコーディネートに当たっている。そのほか、ボランティアとして教職員、個人ボランティアが参画するとともに、保護者なども協力して活動を行っている。</p>
③活動の効果等	<p>長年の活動によって、障害のある方たちの居場所として定着し、学級生も月 1 回の活動日を楽しみにしている。また、学習発表の場も励みとなり、障害者の生きがいづくりと社会参加を進めることができている。</p>

活動の様子

	
音楽活動・演劇の練習風景	クリスマスコンサートに出演

プロフィール

所在地	島根県浜田市	活動分野	文化
受賞者名	社会福祉法人いわみ福祉会（芸能クラブ）	主な対象	知的障害
活動名称	社会福祉法人いわみ福祉会 芸能クラブ	団体の規模（団体の場合のみ）	505人
こんな活動です	障がい者による伝統芸能「石見神楽」の上演		
連携している団体等	地域の神楽社中		

活動の説明

①活動内容	<p>幼い頃から親しんできた伝統芸能である石見神楽を、障がいがある人と職員が共に舞い共に喜び合うことで、地域の方々にも共感していただき、各地のイベントに参加することで地域活動の一つとして取り組んでいます。</p> <p>○昭和53年頃から、障害者支援施設「桑の木園」の利用者に地域の伝統芸能「石見神楽」に触れる機会を提供してきました。</p> <p>○昭和60年に「桑の木園」利用者と社会福祉法人いわみ福祉会の職員有志により「芸能クラブ」を結成し、ともに楽しみながら石見神楽を上演する活動を行ってきました。</p> <p>○毎週1回、定期的に神楽の練習をしています。</p> <p>○地元地域のイベントでの上演から始まり、今では世界各地で上演されるまでなっています。</p>
②活動体制	<p>支援登録職員35人、参加登録障がい者（法人内）42人、参加登録障がい者（法人外）4人、協力神楽社中（共同上演、技術指導等）3団体</p>
③活動の効果等	<p>○長年の継続的な活動によって、障がい者の活躍の場が増え、障がい者の社会参加や自立に大きく寄与しています。</p> <p>○地域住民と触れ合う機会が増え、障がいに対する理解が進み、今では障がいがある人もない人も共に住みやすい地域となっています。</p>

活動の様子



2016年6月2日「安倍総理と障害者の集い」にて上演



「2017ジャパン×ナントプロジェクト」上演後にナント市民との交流

プロフィール

所在地	岡山県岡山市	活動分野	文化
受賞者名	岡山県知的障害者福祉協会	主な対象	知的障害
活動名称	ゆうあい文化祭	団体の規模（団体の場合のみ）	186 事業所
こんな活動です	知的障害のある人のさまざまな自己表現を通じて、障害への理解を広め、共生社会の実現を目指す文化祭！		
連携している団体等	社会福祉法人、行政（保健・福祉部局、教育委員会）、特別支援学校、スポーツ団体、NPO 法人		

活動の説明

①活動内容	<p>知的障害者施設の利用者に、日頃の文化・芸術活動の成果発表、鑑賞機会として、「ゆうあい文化祭」を1972年から47年間連続して開催している。</p> <p>文化祭の内容として、知的障害のある人の舞台発表や創作作品の展示のほか、知的障害のある人が作った手芸品、お菓子、花苗などの販売を行っている。</p> <p><第46回ゆうあい文化祭></p> <p>日時 2017年10月24日（火）10:00～15:00</p> <p>場所 マービーふれあいセンター</p> <p>参加施設 32施設 参加者 約1,000人</p>
②活動体制	<p>後援：岡山県、開催市町村、社会福祉法人岡山県社会福祉協議会、開催市町村の社会福祉協議会、一般社団法人岡山県手をつなぐ育成会、開催市町村の手をつなぐ育成会</p> <p>参加者：県内の福祉関係施設・事業所の利用者及び家族、県内の福祉関係施設・事業所職員、関係団体や一般県民等</p>
③活動の効果等	<p>県内の福祉関係施設・事業所の利用者及びその家族、職員、関係団体や一般県民など、多くの人々が参加・交流することにより、障害への理解が促進されている。また、福祉関係施設・事業所で取り組んでいる文化芸術活動の向上や、知的障害のある人の創作意欲の向上につながっており、知的障害のある人の生活の質の向上や生きがいづくりに寄与している。「ゆうあい文化祭」を通じて、知的障害のある人の文化芸術活動の普及に貢献するとともに、今後は知的障害のある人の社会参加と自立に大きく貢献することが期待される。</p>

活動の様子

	
ステージ発表の様子	作品の展示の様子

プロフィール

所在地	広島県呉市	活動分野	学習、文化
受賞者名	朗読研究会「つばき」	主な対象	視覚障害
活動名称	音訳・朗読活動	団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 20名 事務局員数 1名
こんな活動です	利用者の声に寄り添った音訳活動		
連携している団体等	幼稚園、保育所、小学校、児童館、公民館、図書館、行政（保健・福祉部局、スポーツ文化部文化振興課、総務部秘書広報課、呉市議会）		

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動開始は昭和56年で、毎月発行される呉市の広報誌や民間のタウン情報誌の音訳をテープやCDにして視覚障害者へ送付している。 ○ 呉市の郷土資料や視覚障害者から希望があった資料を随時音訳し、視覚障害者に送付し、さらにデイジー図書として「サピエ図書館」に提供している。 ○ 保育所や児童会等で絵本の読み聞かせをする「でまええほん会」を開催し、子供たちへ意識啓発を行っている。 ○ 年に1回音訳ボランティアを育成するための講座を開催し、他のボランティア団体の模範となる活動を積み重ねている。
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月1回例会を開催し、会員の間で情報共有をしている。 ○ 毎月1回勉強会を開催し、写真を音声で表現する工夫など、会員の資質向上を図っている。 ○ 呉市盲人協会総会に参加し、視覚障害者のニーズ把握をしている。
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に作成している音訳テープやCDは、生活に密着した情報提供であり、障害者の自立に直接役立ったり、「外へ出かけてみようか」と一歩を踏み出すきっかけになったりしている。 ○ 利用者の希望による資料の音訳などのきめ細かい支援は、知的好奇心を満たす豊かな生涯学習支援に顕著な効果を挙げている。

活動の様子



録音風景



会員による音訳作業

プロフィール

所在地	広島県安芸郡府中町	活動分野	学習、文化
受賞者名	府中音訳・朗読グループ「クローバー」	主な対象	視覚障害
活動名称	音訳・朗読活動	団体の規模（団体の場合のみ）	約30名
こんな活動です	郷土史を声でお届け		
連携している団体等	特別支援学校，図書館，社会福祉法人，行政（教育委員会、保健・福祉部局），地域の自治会，シルバー人材センター		

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動開始は昭和49年で、毎月発行される府中町広報誌や議会だより等を録音し、視覚障害者へ音訳CDを送付している。 ○ 小説、府中町の歴史等の録音図書を作成し、府中町社会福祉協議会や府中町立図書館に配置している。 ○ 障害者が参加する各種交流会・サロンで朗読等を行う。 ○ 特別支援学校に、町内の史跡や伝統行事などを紹介する「あき府中カルタ」と「府中の郷土史カルタ」の音訳CDを寄贈した。
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ毎日、音訳作業に取り組んでいる。 ○ 府中町社会福祉協議会主催の音訳・朗読ボランティア養成講座・研修勉強会を行っている。
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府中町内に広く普及しており、視覚障害者の学習支援に大きく貢献している ○ 特別支援学校に寄贈された郷土史カルタの音訳CDは、「音声書籍の中でも地元に関する資料は貴重だ」と感謝されている。

活動の様子



録音中の様子



会員も参加しての研修勉強会

プロフィール

所在地	山口県山口市	活動分野	スポーツ
受賞者名	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	主な対象	障害のある児・者広く県民一般
活動名称	障害者スポーツ推進事業	団体の規模（団体の場合のみ）	事務局員数 6 名 会員数 77 団体
こんな活動です	障害者スポーツをとおして、故郷を誇れる社会に		
連携している団体等	特別支援学校、スポーツ団体、社会福祉法人、企業・事業所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）		

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツの教室・大会の開催 県下全域から参加者を募集し、幅広い分野のスポーツ教室や大会を開催 ・地域活動拠点づくり 障害者スポーツの振興のため、県内各地の拠点づくりを行うとともに障害者スポーツ団体が行う活動を支援 ・障害者スポーツ人材養成 障害者スポーツに欠かせない支援者、専門的知識をもった障害者スポーツ指導員及び医・科学スタッフ、ボランティア等の養成 <ul style="list-style-type: none"> * 障害者スポーツ指導者の養成 平成30年度講習参加予定 36名 * 障害者スポーツボランティアの養成 平成29年度講習会参加者 9名 * 障害者スポーツ医・科学支援相談会の開催 平成29年度相談会参加者 36名 ・障害者スポーツ選手（チーム）の育成・強化 <ul style="list-style-type: none"> * やまぐちパラアスリート育成ファンド 東京2020パラリンピック等国際競技大会をめざす選手の育成・強化 (平成30年度 陸上競技1名、ボッチャ1名、射撃1名、水泳3名、卓球2名 計8名) * 全国障害者スポーツ大会等で力を発揮できるよう選手の発掘・強化（現在 19 競技団体） ・広報活動、調査研究、顕彰 ホームページや会報により障害者スポーツの情報提供、障害者スポーツの普及及び振興を図るための調査研究、発展貢献者の表彰
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ・会長、副会長、常務理事、事務局長、事務局（事務局6名） ・正会員（障害者スポーツ団体、障害者福祉団体、障害者関係施設、特別支援学校、スポーツ指導者、ボランティア団体、パラ・メディカル等関係団体、一般スポーツ団体、スポーツ施設、福祉関係団体等）
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある児童生徒を含む障害者の競技人口の拡大 ・全国で活躍する選手の輩出など、競技力の向上 ・会員団体の拡充による地域活動の拠点づくりの広がり ・障害児・者を支える指導者、医・科学支援スタッフ、ボランティアの育成による人材の広がり ・活動の有機的なつながりによる共生社会の形成に向けた地域の環境整備

活動の様子



第3回山口県障害者交流スポーツフェスティバルの開会式
(藤田会長のあいさつ)



平成30年度理学療法士対象中級障がい者スポーツ指導員養成講習会
(陸上競技の実習)

プロフィール

所在地	徳島県板野郡藍住町	活動分野	スポーツ
受賞者名	藍住福祉スポレククラブ	主な対象	知的障害
活動名称	障がい者ふれあいスポーツ教室	団体の規模（団体の場合のみ）	25人
こんな活動です	障がいがあっても、共にスポーツでいい汗かこう！！		
連携している団体等	特別支援学校、社会教育関係団体、NPO法人、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会）、福祉施設		

活動の説明

①活動内容	<p>障がいがある人にもスポーツを通して、継続して体を動かす楽しさを体験し、健康づくり、仲間づくりをしてほしいと、町内の障害者スポーツ指導員が中心となり、平成11年に「藍住福祉スポレククラブ」が発足しました。</p> <p>障がいのある人、ない人が共にスポーツやレクリエーションで交流し、ふれあいを深めてもらうため、現在、毎月第1、第3水曜日の午後7時30分から午後9時まで「ふれあいスポーツ教室」を年間を通して開催しています。内容として、最初のストレッチ、体を温めるリズム体操、メイン運動としてバドミントン、ラージボール卓球などの他、囲碁ボール、ポッチャ、フリスビーなどのニュースポーツを取り入れています。特別プログラムとして、日帰り旅行やキャンプ、スキーも楽しんでいます。また、地域の方々との交流の場として、町内のスポーツフェスティバルへの参加など、多くの人と触れあえる機会も大切にしています。</p> <p>プログラムにより取り入れるスポーツは、ルールや用具の変更など、障がいがあっても参加しやすいように工夫していますが、最近は参加者も高齢化しているため環境に合わせ時間の短縮などを含め無理のないように進めています。</p>
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人あいずみスポーツクラブの教室として開催しています。 ・社会福祉協議会などの障がい者対象の行事に、ボランティアとして参加しています。 ・クラブメンバーが町内外の障がい者施設にリズム体操やニュースポーツの指導に行くときもあります。 ・指導者は日本障害者スポーツ協会の障害者スポーツ指導員の資格を取得するとともに、県内外の講習会や研修会に参加し知識を深め、さまざまな場面に対応できるようにしています。
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室に参加している人たちが、グループホームや施設の友人との交流のほかに、教室の行事をとおして、地域の方々との行事の場で積極的に関わりが持てるようになりました。 ・集団でのスポーツ体験が少なかった人たちが、自分の体力にあわせて動けるようになり、思わぬ能力を発揮し他団体主催の囲碁ボール大会で優勝するなど集団の中で活動することができるようになりました。

活動の様子



ふれあいスポーツクラブでの囲碁ボールの様子



障がい者ニュースポーツ体験を実施し、普段スポーツクラブに参加していない人たちも、ニュースポーツを楽しみました。



冬のスキー体験の様子。独自で作ったそりに乗って雪を感じました。

プロフィール

所在地	徳島県徳島市	活動分野	学習
受賞者名	うりうりごりら	主な対象	肢体不自由の児童・生徒
活動名称	児童・生徒への絵本の読み聞かせ活動	団体の規模（団体の場合のみ）	2名
こんな活動です	「うりうりごりらのおはなし会」で楽しく絵本の読み聞かせをしています。		
連携している団体等	小学校、特別支援学校、図書館		

活動の説明

①活動内容	小学生や特別支援学校の児童生徒に向けて、長年にわたりボランティアで絵本の読み聞かせ活動を行っている。肢体不自由のある児童生徒の在籍する徳島県立ひのみね支援学校には約20年にわたって毎月訪問し、「うりうりごりらのおはなし会」として読み聞かせを行っている。おはなし会には、小学部から高等部まで、様々な子供たちが集まってくる。おはなし会をする上でとても大切な本の選定については、毎回テーマを決め、そのテーマに沿った絵本を選ぶようにしている。テーマは季節感のあるものや生活に関するもの、年中行事など児童生徒が興味関心を持ちやすく、かつ知的好奇心を刺激するような物語を選択する等、多岐にわたるように留意している。おはなしの合間に、手遊びや絵かきうた、ことばあそび等を交え、読み手と児童生徒と先生と一緒に「おはなしを楽しめる空間を創ることに重点をおいて活動している。読み聞かせが終わった後は、子供たちの質問に答えるなどの時間をもち、児童生徒一人一人と交流する機会としている。
②活動体制	毎月1回、主にひのみね支援学校において、おはなし会を開催している。現在は2名のスタッフで活動している。地域の図書館と連携し、題材になる絵本の選定を行っている。
③活動の効果等	社会経験の少ない児童生徒に対し、訪問の読み聞かせを継続することで、児童生徒が絵本の楽しさを共有する良い機会となっている。また、おはなしの場面を想像したり、言葉の表現を知ったりすることで子供たちの聞く力やコミュニケーション能力を育むことにも繋がっている。

活動の様子

		
みんなわくわく「おはなし会」	読み聞かせ風景① 「笑顔いっぱい楽しいね」	読み聞かせ風景② 「知らないことがたくさんあるね」

プロフィール

所在地	愛媛県松山市	活動分野	スポーツ
受賞者名	NPO 法人タンデム自転車 NON ちゃん倶楽部	主な対象	肢体不自由・視覚障害・聴覚障害・知的障害・その他の障害
活動名称	障がい者のサイクリング活動	団体の規模（団体の場合のみ）	役員 12 名 （会員数 500 名）
こんな活動です	障がいなんて吹っ飛ばせ！！		
連携している団体等	特別支援学校、公民館、図書館、PTA、社会教育関係団体、スポーツ団体、NPO 法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（保健・福祉部局、スポーツ部局）		

活動の説明

①活動内容	<p>視覚・身体・知的障がい者等と健常者が一緒にタンデム自転車（2人乗り自転車）に乗り、健康や友情や生きがいを育む取組みである。</p> <p>「お前が俺の眼になり、俺がお前の脚になる」とタンデム自転車に乗った日常生活を送ることが、亡くなった視覚障がい者の主人の夢であったため、平成 22 年に愛媛県内で乗車が全面解禁となったことをきっかけに活動をスタートした。</p> <p>タンデム自転車は健常者と障がい者が障がいの有無にかかわらず一緒に楽しめる「インクルージングスポーツ」の代表的な活動で、障がい者の社会参加の促進と共生社会の実現を図るために行っている。特に、障がいを持つ方に対し「体験に勝る教訓はなし！」とタンデムサイクリングへの参加を積極的に呼び掛け、この体験をきっかけに障がい者やその家族等の社会参加の促進を図っていこうとしている。また、健常者にとっても、障がいを理解するには「共に時間を共有する」ことが一番大切と考え、当該活動を通じて、多様な障がいを理解する機会となっている。</p> <p>今では、競輪選手と競輪場を走ったり、マリンスポーツと組み合わせたイベントを行ったりすることも定例化している。また、地域ボランティアの方々と釜でご飯を炊いておにぎりを作る体験などして、障がい者の自立の助けになればと実施している。</p> <p>平成 29 年度の年間延べ支援対象者数は、760 人（うち障がい者とその家族 398 人）であった。</p>
②活動体制	<p>NON ちゃん倶楽部の活動は、「随喜功德」で成り立っている。行政、企業、競輪選手等の方々からタンデムパイロット、ブース・一般・搬送ボランティア等、多岐にわたる「随喜功德メンバー」である。さらに、協賛企業なども入れると年間 300 名を超す方々に協力していただいている。</p>
③活動の効果等	<p>「まさかこんなことができるなんて！！」という感動を味わうことで、次の一歩が踏み出せる。先天性や後天性、障がいの状況、年齢、立場の違いなど様々であるが、当該活動を通じ、障がい者やその家族、サポートする方々から、「生きていてよかった」「人生そのものを変えることができた」「心が洗われてストレス解消ができた」と喜びの声を受けるなど、様々な活動の効果が出ている。</p> <p>具体的には、引きこもり自殺まで考えていた人が今では台湾まで走りに行き、外の方にも喜んでほしいと積極的な生き方に舵を切ったり、イベントで出会った視覚障がい者が複数組結婚し、子どもが生まれたりするなど、参加する方々の人生をも変える結果が生まれている。</p> <p>また、ここ最近自然災害が増え、南海トラフ地震が発生した場合、本県ではかなりの被害が出ると予想されていることから、現在、障がい者の大地震発生時の不安を払拭するため、「避難困難者に可能性と夢を」を活動テーマに設定し、自主防災組織との連携も視野に入れた活動をしている。</p> <p>様々なメディアでも活動が取り上げられ、全国からの問合せも増え、県外からの参加者もあった。昨年は、「国際交通安全学会」が愛媛県で開催できたことも誇りに思っている。</p> <p>活動パンフレットの発行（年 1 回 3,000 部）を継続して行い、イベントに参加した方々の声や苦しみから立ち直った経験を書いていただき、「体験に勝る教訓は無し」の思いで作成している。</p> <p>視覚障がい者の方には、サピエ図書館で情報を取得できるようにしている。</p>

活動の様子



新たに寄贈で増備されたロード型タンデム自転車



水上バイクへの乗船もスタッフパワーで障がいをクリア

プロフィール

所在地	愛媛県四国中央市	活動分野	文化
受賞者名	NPO 法人カノン	主な対象	肢体不自由・視覚障害・聴覚障害・知的障害・その他の障害
活動名称	障がい者との音楽活動	団体の規模（団体の場合のみ）	役員 6 名 （会員数 14 名）
こんな活動です	音楽を使った楽しい活動♪		
連携している団体等	幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校、児童館、公民館、図書館、PTA、社会教育関係団体、NPO 法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）		

活動の説明

①活動内容	<p>肢体不自由・視覚障害・聴覚障害・知的障害・発達障害・精神障害等、すべての障害種別を対象とした障がい者や、乳幼児から高齢者までの幅広い世代に対して、音楽の持つ力により心身の機能回復や質の向上をはかり、生まれ育った豊かな自然と温かな風土の中で尊厳ある生活が送れるよう手助けをすること、そして、音楽を共有するコンサート事業、音楽療法推進事業など、人と人の輪を作り生きる喜びを分かち合う音楽活動することを目的として活動している。</p> <p>主宰している「障がい児対象の音楽くらぶ」では、音楽がもつ無限の可能性を発達の援助に活かそうと様々な楽器を使って演奏活動を行い、障がい児が自分の長所を伸ばし自分に自信が持てるように努め、四国中央市内2箇所（寒川公民館、金生第一小学校）で月1回ずつ実施している。</p> <p>また、重症心身障害児者デイケアさいちごでの音楽療法（月2回程度）、障がい者支援施設ステップ by すてっぷでの音楽活動（月1回）、障がい者デイサービスきらめきでの音楽療法（月1回）、松風病院および豊岡台病院で精神障がい者デイサービスでの音楽療法（月1回程度）などの活動をしている。</p> <p>さらに、毎年、川之江小学校親子&ステップ by すてっぷの交流学習会でのミュージック・ケアを開催したり、2年に1回、障がい児者 100 名程度がホールのステージに立って音楽を楽しむコンサート「カノンみゅーじっくカーニバル」を開催したりしている。</p> <p>平成 29 年度は、年間 165 回ほど活動し、年間延べ支援対象者数は約 2,000 名であった。</p>
②活動体制	<p>平成 18 年にピアノの講師3名で始めた「障がいのあるこども達との音楽活動」をきっかけとして、平成 19 年 7 月に療法的音楽活動サークル「カノン」という名前で四国中央市ボランティアセンターにボランティア登録をし、平成 26 年4月に NPO 法人として設立認証された。現在、会員 14 名で構成され、幼稚園から中学校、児童館、公民館、社会福祉法人、企業、行政など、多種多様な団体等と連携しながら活動している。</p>
③活動の効果等	<p>活動の効果としては、乳幼児から高齢者まで、障がいの有無に関わらず多くの人々と、楽しく音楽を共有して交流することができ、音楽の特性を生かして、対象者の心身に快い刺激を与え、対人的な関係の質を向上させ、情緒の回復や安定を図る。さらに、運動感覚や知的機能の改善を与えている。</p> <p>地域全体への普及状況としては、幼稚園・小学校・中学校・高校や児童館、公民館などと積極的に交流を深め、地域に根付いた活動を行っている。</p>

活動の様子



2016 年 6 月 30 日のみゅーじっくカーニバル



音楽くらぶ活動風景

プロフィール

所在地	高知県香南市	活動分野	スポーツ
受賞者名	NPO 法人 YASU 海の駅クラブ	主な対象	身体障害、知的障害、精神障害
活動名称	ハンザクラス Hand in Hand 高知大会	団体の規模（団体の場合のみ）	事務員 3 名 会員数 180 名
こんな活動です	障害があってもなくても真剣勝負、 「みんなが楽しい」ヨットレースを！		
連携している 団体等	特別支援学校、スポーツ団体、社会福祉法人、企業・事業所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）、高知大学		

活動の説明

①活動内容	<p>『ハンザクラス』は小型ヨットの種類の名前です。この小型ヨットは、センターボード下部に錘を搭載し、前を向いた座席から移動することなく、操船をすべて手元でできるように工夫されています。その特徴から、障害のある方もない方も、初心者もベテランも一緒にセーリングを楽しむことができます。</p> <p>NPO 法人 YASU 海の駅クラブでは、この小型ヨットを使ったレースを、地域の福祉事業者や障害者スポーツセンターと共に企画、運営しており、レース後の表彰式・昼食を兼ねた親睦会では、参加した障害児・者やその家族、地域住民を含むボランティアのサポートスタッフを交え、交流の輪を広げています。</p>
②活動体制	<p>当法人を中心とした実行委員会で、障害者スポーツセンターや障害者福祉施設へ参加を呼びかけ、大会前にはヨット体験講習などを行い、参加しやすい環境をつくっています。</p> <p>また、連携団体などのほか、学生や市広報などを通じて一般ボランティアを募り、サポート体制を拡充しています。</p>
③活動の効果等	<p>地域のヨット愛好者やジュニアヨットクラブ、大学生など、一般ボランティアや支援者のほか、障害福祉サービス事業所、地域活動支援センター、社会福祉協議会、県立盲学校、養護学校などを巻き込みながら大会を企画し運営する中で、障害への相互理解が深まっています。</p> <p>さらに、この大会をきっかけとして各機関や参加者同士の繋がりが広がっており、本大会以外での活動参画や事業連携・協力体制が構築され、共生社会実現に向けた取り組みの一つとなっています。</p> <p>また、参加する障害児・者にとっては、障害の種類を問わず、誰でも乗れるハンザクラスを活用し、日常ではなかなか体験できないヨットレースに参加することで、障害児・者の自信や生きがいの向上につながっています。</p>

活動の様子



【洋上でのレース風景】

レース中は、陸上からの監視とあわせ、海上にサポート船を複数配置し、安全を最優先した運営管理を徹底しています。



【安定感のあるハンザクラス】

操船に慣れていない障害者には、その障害の内容を把握したサポート選手が同乗し、レースをフォローしています。

プロフィール

所在地	福岡県福岡市	活動分野	学習、文化
受賞者名	福岡県立図書館 音訳の会	主な対象	視覚障がい者
活動名称	録音図書製作	団体の規模（団体の場合のみ）	38名
こんな活動です	録音図書を視覚等に障がいがある方へお届けします！		
連携している団体等	福岡県立図書館		

活動の説明

①活動内容	<p>視覚等に障がいがある方に、読書する喜びをお届けするために、録音図書を製作するのが会の目的です。</p> <p>製作にあたっては、利用者からリクエストされた本や、2年以内の新刊本、「暮らしの手帖」などの雑誌を含めた選書をしています。</p> <p>録音図書は、利用者の眼の代わりであることから本に書かれていることを漏れなく、内容が自然に頭の中に浮かんでくる読みが大切になります。その為には、スピード、間の取り方、アクセント、イントネーション等注意すべき点がたくさんあります。また、本の中には写真・グラフ・表・イラストなど視覚に訴えるものがたくさんありますので、それに対して分かり易い説明も必要になります。</p> <p>これらの点に留意して、勉強会、研修会、定例会、講習会等を通じて、音訳技術の向上と利用者の要望を取り入れ、できるだけ早く、たくさんの聴き易い録音図書の提供に努めています。</p>
②活動体制	<p>会員は、音訳者、校正者、DAISY校正者の3つのグループに分かれ、それぞれの部門が協力して1冊の録音図書を作り上げます。製作した本は、県立図書館の録音図書蔵書として、担当課へ納めています。</p> <p>また、福岡県立図書館の施設を活用して、研修や会議、校正・DAISY校正等の活動を行うと共に、録音図書ボランティア養成講座を図書館と協力して開講し、音訳ボランティアの知識を深め技術の向上を図ると共に、後継者の育成にも力を入れています。</p>
③活動の効果等	<p>昭和50年からテープによる録音図書を手掛け、10年程前からパソコンを使ってCDにデジタル録音するようになり、利用者の利便性が大きく向上いたしました。これまで43年間で、約4,500冊以上の録音図書を製作いたしました。県内はもちろん全国各地の公共図書館や点字図書館、視覚障がい者支援センターなどに貸し出しを行い、視覚障がい者の読書する権利を守ると共に、本を読む楽しみに貢献しております。</p>

活動の様子



暮らしの手帖を全員で校正中



録音図書音訳ボランティア養成講座

プロフィール

所在地	福岡県朝倉市	活動分野	学習
受賞者名	ふみの会	主な対象	視覚障がい者
活動名称	点訳、福祉教育支援活動	団体の規模（団体の場合のみ）	11名
こんな活動です	無理せずできる事をできるしこ！ （しこ＝方言で“だけ”の意味）		
連携している団体等	社会福祉法人、行政（教育委員会、選挙管理委員会）、 聴覚障がい者福祉協会、朝倉市視覚障がい者福祉協会、 朝倉市鍼灸マッサージ協会		

活動の説明

① 活動内容	<p>視覚障がい者への理解を深めるために点訳による情報提供や社会保障の向上を図るため会員の情報提供技術（点訳技術）向上に努める。</p> <p>朝倉市視覚障がい者福祉協会主催の行事運営の協力とガイドヘルプ（誘導）、社会福祉協議会主催の点訳奉仕員養成講座の講師、市内小中学校の福祉体験での点訳学習指導および視覚障がい者講師への協力を行っている。</p> <p>また、会員の視覚障がいへの理解を深めるために毎週定例会（勉強会）を行い、点訳による視覚障がい者への情報提供や社会保障の向上を図るため情報提供技術（点訳技術）向上に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者からの依頼に基づき書籍点訳、点訳資料など作成。 ・行政や社会福祉協議会からの依頼による点訳資料を作成。 ・朝倉市視覚障がい者福祉協会依頼による協会行事の運営協力、点字資料作成。 ・朝倉市鍼灸マッサージ協会依頼による協会行事の運営協力、点字資料作成。
② 活動体制	<p>朝倉市視覚障がい者福祉協会、社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会と連携を取りながら地域住民が視覚障がいを理解し、誰もが住みやすい街づくりを実現できるように努めている。また、視覚障がい者の会員と共に点訳を行い、分かりやすい点訳を心がけ協力して点訳活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝倉市社会福祉協議会の福祉ボランティア団体として登録。 ・朝倉市ボランティア連絡協議会に登録。
③ 活動の効果等	<p>点訳による情報提供を行う事により視覚障がい者が必要な情報取得と点訳による学びができています。</p> <p>市内小中学校での点訳学習指導や市民を対象とした点訳奉仕員養成講座講師を行う事によって、地域住民の視覚障がいへの理解に繋がり、幅広い世代の人が点字を知るとともに点訳の必要性を感じることによって視覚障がい者の社会参加の機会が広がっている。今後も点訳技術向上に努め、読みたい・学びたい多くの視覚障がい者への支援を続けていきます。</p>

活動の様子

	
点訳奉仕員養成講座での点訳指導	小学校福祉体験での点訳指導

プロフィール

所在地	佐賀県佐賀市
受賞者名	山田 力也
活動名称	障害者スポーツの支援及び普及
こんな活動です	誰もが生涯スポーツを楽しめる環境づくり
連携している団体等	小学校、特別支援学校、児童館、公民館、PTA、社会教育関係団体、スポーツ団体、NPO 法人、社会福祉法人、行政（保健・福祉部局、スポーツ）

活動分野	スポーツ
主な対象	知的障害・肢体不自由・精神障害

活動の説明

①活動内容	<p>平成 14 年に障害者を対象としたスポーツ支援ボランティアサークルを設立し、障害者が参加できるイベントの実施を行っているほか、行政や福祉関係団体、福祉サービス施設等からの依頼に応じて年間 100 回以上のスポーツ・レクリエーション指導及び活動支援を行っている。</p> <p>また、同年より県内全域において卓球バレー競技の体験会及び大会の企画・運営等を通じて、県内のチーム設立の支援を行っている。加えて、選手・指導者・審判員の養成も行うことで、同競技の県内での普及啓発に多大なる貢献を果たした。</p> <p>平成 22 年 4 月には発起人として佐賀県卓球バレー協会を設立し、事務局長として毎年度の県大会、九州大会の開催及び運営を行うとともに、九州大会等においては県代表チーム監督として、競技力向上のため尽力した。</p> <p>加えて、2023 年に佐賀県で開催される全国障害者スポーツ大会を見据え、ポッチャ競技の県内での実施体制づくりのため、自ら中心となって平成 30 年 4 月に佐賀県ポッチャ協会を設立した。</p>
②活動体制	<p>ボランティアサークルの構成は大学生 19 名（平成 30 年 7 月現在、平成 29 年度までに 113 名が参加）であり、行政（スポーツ担当課・障害者福祉担当課）や福祉関係団体等との連携により活動を実施している。</p>
③活動の効果等	<p>ボランティアサークルでの活動は、行政や福祉関連団体等が行うスポーツ事業との連携により、障害者の障害者スポーツ活動はもとより、レクリエーションやニュースポーツを通じた生きがいや健康づくり、地域住民との交流の場づくりを長年にわたり支え、共生社会の実現へ寄与している。</p> <p>また、卓球バレー競技においては、平成 30 年 7 月現在で県内に 16 団体 22 チームが設立されており、愛好者の増加により、佐賀県さわやかスポーツ・レクリエーション祭及び佐賀県障害者スポーツ大会の正式実施種目となった。</p>

活動の様子



ボランティアサークルによるレクリエーション指導



卓球バレー協会「ムツゴロウ杯交流大会」

プロフィール

所在地	佐賀県佐賀市
受賞者名	小松原 修
活動名称	障害者の文化芸術活動支援
こんな活動です	障害者のチャレンジを演劇で支援する体制づくり
連携している 団体等	幼稚園、特別支援学校、公民館、社会教育関係団体、NPO 法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政

活動分野	文化
主な対象	発達障害・知的障害・ 肢体不自由・精神障害

活動の説明

①活動内容	<p>平成 11 年に、障害のある人が演劇やダンスで活動できる環境を作るため、劇団「チャレンジステージ」を旗揚げし、演劇や楽器演奏により障害者が自ら活動できる場づくりに努めている。</p> <p>舞台での公演を年間 3 回程度行っているほか、平成 15 年からは、外出が困難な肢体不自由のある青少年の自宅に向いて公演する「ファミリーシアター」も県内外で広く実施している。</p> <p>加えて、身体障害者療護施設の演劇サークル等に対する演劇・楽器演奏の指導支援や、障害者及び支援者を対象としたワークショップ開催など、障害者が文化芸術活動を身近に捉えたり、主体的に活動を行えたりする環境づくりに尽力した。</p> <p>これらの活動に参加した障害のある青少年は現在までに県内外を合わせて延べ 500 名以上に上る。</p> <p>これらを通じて、地域の障害者から「自分も挑戦してみたい」という連絡が来るようになったほか、地域住民から演劇や演奏を観たり聞いたりしたいといった芸術鑑賞としての要請がされるなど、障害者自身の主体的活動の啓発や、地域における障害者理解の普及・啓発につながっている。</p>
②活動体制	<p>劇団は県内の教諭、福祉施設職員等 9 名が中心となって運営されているが、劇団の旗揚げ時から代表として運営の中核を担っている。</p> <p>活動は月に 1 回の練習と年に 3 回程度の公演を行っているほか、障害者に関わる活動を行う NPO 法人や団体からの相談に対応し、「ファミリーシアター」については随時、障害者や支援者を対象とした指導支援やワークショップについては原則として週末に実施している。</p>
③活動の効果等	<p>長期にわたる「チャレンジステージ」の活動により、障害者が表舞台に出て主体的に活動できる機会だけでなく、障害を持つ当事者が自分の障害と向き合ったり、障害がある人間としてどう生きていくのかを考えたりする機会となっている。</p>

活動の様子



演劇の練習風景



狂言「附子」の公演

プロフィール

所在地	長崎県長崎市	活動分野
受賞者名	亀田 信樹	スポーツ
活動名称	長崎県障害者スポーツ大会の企画・運営等	主な対象
こんな活動です	スポーツを通じた障害者社会参画の推進	身体障害、知的障害、精神障害
連携している団体等	特別支援学校、スポーツ団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）	

活動の説明

①活動内容	<p>平成21年に長崎県障害者スポーツ協会に入職する以前に、昭和44年に開催された「第5回全国身体障害者スポーツ大会」の陸上競技に携わって以来、間断なく大会運営や監督として、障害者スポーツの普及・活性化に努めてきた。</p> <p>平成21年から、一般社団法人「長崎県障害者スポーツ協会」事務局次長として、長崎県障害者スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会、その他障害者スポーツの普及、及びスポーツを通じた社会参加の推進に貢献している。特に、平成26年度に開催された全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」では、長崎県障害者スポーツ協会事務局次長兼長崎県選手団の総監督を務め、大会運営の中心として、開催準備から当日の運営まで円滑に運営し、大会を成功に導いた。</p> <p>障害者スポーツの指導者を登録する「障害者スポーツ人材バンク」を推進するとともに、登録した指導者に助言・指導を行っている。また、地域障害者団体、障害者施設、特別支援学校等からの要請を受け、障害者スポーツ・レクリエーション教室を開催し、障害者スポーツの裾野拡大、障害者の社会参画、生活の向上に寄与している。</p>
②活動体制	<p>長崎県障害者スポーツ協会（正会員、賛助会員、事務局）と行政（国、県、市）、学校、地域、施設等を結びつけ、連携して実施している。</p>
③活動の効果等	<p>障害者がスポーツ・レクリエーション活動等を行うことを通じ、スポーツに関心を持ち、日々スポーツに取り組み意識を醸成することで、障害者の心身の健康維持・体力向上につなげている。</p> <p>県内各地でのスポーツ・レクリエーション教室の実施以外にも、離島（五島市）で障害者スポーツ指導員（初級）養成講習会を実施した。</p>

活動の様子



「障害者スポーツ教室（風船バレー）」



「長崎県障がい者スポーツ指導員（初級）養成講習会」

プロフィール

所在地	大分県速見郡日出町
受賞者名	ソニー・太陽株式会社
活動名称	ソニー・サイエンスプログラムを活用した「インクルージョン・ワークショップ」等
こんな活動です	「未来を生きる子どもたちへ、科学のチカラを」障がいの有無に関わらず、誰もが科学に触れることができるように、科学体験・ものづくり講座を実施しています。
連携している団体等	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、行政（教育委員会）

活動分野	学習
主な対象	障がいのある児童生徒、障がいのある社員（肢体不自由、聴覚障害等）
団体の規模（団体の場合のみ）	180名 （うち、障がいのある社員115名）

活動の説明

①活動内容	<p>ソニー・太陽株式会社では、誰もが科学に触れることができる機会を提供するため、ソニー・サイエンスプログラムを活用した科学体験・ものづくり講座「インクルージョン・ワークショップ」を2009年から継続的に実施しています。</p> <p>講座では、障がいのある社員が講師やスタッフを務めます。参加対象は特別支援学校や小・中学校の児童生徒、ソニー・サイエンスプログラムのキット製作や電子タグMESHを活用したプログラミングに挑戦しています。</p> <p>当日集まった子どもたちは、障がいの有無に関わらず、同じグループにして活動するようにしています。また、初めての出会いを大切にもらえるよう、講座は互いの自己紹介から開始します。自己紹介をきっかけに、子どもたちが会話や教えあいが生まれ、道具を共有したりすることを通して、互いが距離を縮め、自然な感じで他者理解が促進するように努めています。</p> <p>【主なワークショップアイテム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルと牛乳パックでつくるヘッドホン「音の伝わるしくみを考えながら工作しよう！」 ・つくって、あそんで楽しく学ぶICレコーダー「録音のしくみを考えよう！」 ・電子タグMESHを活用したプログラミング講座「身の回りのものを使って楽しく“発明体験”してみよう！」
②活動体制	<p>プログラムの講師は、障がいの有無に関わらず、ソニー・太陽株式会社ダイバーズビジネス部 広報・CSR室を中心に、社員教育をかねて幅広く登用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーズビジネス部…40名 ・ソニー・サイエンスプログラムの講師・スタッフを務めた社員数…延べ314名 （うち障がいのある社員185名）
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年～2018年2月において、開催累計55回、参加児童生徒1,568名（参加者のうち、特別支援学校の児童・生徒数150名） ・地元大分県を中心に、北は2011年の震災直後の岩手県南山田から南は沖縄市に至るまで、幅広く活動を展開 ・障がいのある社員が講師となることにより、参加する子どもに対する多様な個性への気づきや新たな夢を促す出会いの場となっています。また、講師を務める社員にとっても、子どもにものづくりを教える活動を通して自らの新たな可能性を感じる機会となるとともに、同じ障がいのある子どもとの出会いにより夢や目標を与える機会となる等、社会貢献の場にもなっています。

活動の様子



インクルージョン・ワークショップの様子
「ペットボトルと牛乳パックでつくるヘッドホンづくり」



講座の最後には、みんなで一緒に「記念撮影」をします♪

プロフィール

所在地	宮崎県日南市	活動分野	文化
受賞者名	輝きエイサーサークル	主な対象	知的障害
活動名称	輝きエイサーサークル	団体の規模（団体の場合のみ）	28名 顧問1名、支援員14名（保護者等10名、ボランティア4名）、男子会員8名、女子会員5名
こんな活動です	エイサーを通じて仲間の言葉が支え、 輝く笑顔がいっぱい		
連携している団体等	NPO 法人、日南市手をつなぐ育成会		

活動の説明

①活動内容	<p>特別支援学校卒業後、新たな環境で懸命に過ごす仲間たち。楽しい余暇時間を作ることで、メリハリのある日々が生まれることを目的に、エイサー活動を始めました。当初は踊りの練習より仕事のこと、友達のことなどの悩みごとや、ため息ばかりのお話サークルでした。</p> <p>踊りにもっと興味を持たせようと県内の福祉大学のエイサーサークルへ協力を依頼し、基本的な振り付けを収録していただいたDVDを見ながら、バケツをペットボトルで叩き、リズムをとるところから始めました。</p> <p>本人たちは、是非とも本物に触れ合いたいと大学祭に出向き、交流をもったことが良い刺激になっていったようです。当時は活動予算もあまりなく、窮屈な思いをしながらの活動でしたが、今では踊りを披露する機会も増え練習量も多くなり、基本動作も自分たちで考えています。</p> <p>どんなステージでも披露できる時間をいただいたことに感謝して、間違えても笑顔で頑張ることをモットーに、各自思い思いの時間づくりを楽しんでいます。</p> <p>練習の合間のお茶の時間に出る言葉、「仕事辞めないでがんばろうね！」が仲間たちの合言葉になっています。</p>
②活動体制	<p>基本的に月3回、午後7時から1時間半程度の練習及びお茶飲み時間です。予定を変更するときなどは、リーダーよりグループメールで連絡を取っています。</p> <p>練習内容は、全員で振り付けの変更確認等を話し合い、支援者の方々に手直しをお願いします。エイサーの出演依頼があったときは、全員で話し合っどうするのかを決定しています。</p> <p>披露ステージが近づくにつれて近くの自治公民館を借りて練習を行っていますが、夜間で太鼓の音が響くため、地域の方々に理解をいただきながら練習を行っています。</p>
③活動の効果等	<p>本人たちのステージ終了後は、達成感と満足感に満ち溢れた笑顔を見せており、会場からの盛大な拍手や支援者の方々からの温かい言葉を送ってもらうことで自信に繋がり、地域において、応援して下さる方々に元気を与えています。</p> <p>エイサー活動を通じて、人前でも緊張することなく行動できるようになり、手をつなぐ育成会主催の「新春の集い」等のイベントでは、自分たちで司会ができるようになりました。また、地域の人たちと交流を図ることで、新しい仲間づくりに繋がっています。</p>

活動の様子



施設でのエイサー披露



エイサー披露終了後の記念写真

プロフィール

所在地	千葉県千葉市	活動分野	文化
受賞者名	千葉幕張ロータリークラブ	主な対象	なんらかの障害がある中学生以上の方
活動名称	アートフレンズ展	団体の規模（団体の場合のみ）	会員 37 名 事務局 1 名
こんな活動です	障害のある方々のアート活動を支援することを目的とし、作品展の企画運営や作品絵はがきの販売などを行います。		
連携している団体等	高等学校、特別支援学校、公民館、図書館、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、行政（教育委員会、保健・福祉部局、区役所）、大学、美術館、博物館		

活動の説明

①活動内容	<p>なんらかの障害がありながらアートする人たちの美術展を企画し、運営しています。</p> <p>年に1回、毎年5月に開催し、会期は5日間。主に千葉県内の障害者施設などや個人の方より、絵画・粘土工芸などの作品を募集しています。出品者の中には、アートフレンズ展に向けて1年がかりで準備、作成して下さる方もいます。</p> <p>回数を重ねるごとに応募して下さる方や来場者数が増え、19回目を迎えた今年度は、出品者数279名、出品数422点、来場者1200人にもなる大きな美術展となりました。</p> <p>千葉幕張ロータリークラブでは障害のある方に作品発表の場の提供と、支援者の方にやり甲斐を感じて頂くことを目的として、この活動を続けてまいりました。毎年、私達ロータリークラブ会員は出品者の笑顔に出会えることが楽しみとなっており、今後も続けて活動していく予定です。</p> <p>また、毎年秋には（学）植草学園 植草学園大学にもご協力頂き、アートフレンズ展 in 植草も開催しています。</p>
②活動体制	<p>千葉幕張ロータリークラブ内の社会奉仕委員会が主導し、アートフレンズ展実行委員会が組織されます。</p> <p>実行委員会内には総務係、作品係、会場係、広報係があり、作品の公募から作品の展示等までを実施するとともに、ポスター、チラシの配布や案内葉書（2000枚）の発送を行います。千葉市と千葉市教育委員会に後援をいただき、市政だより等にも案内の掲載をお願いしています。また、市内にある植草学園大学の学生を、準備や受付等のボランティアとして受け入れています。</p>
③活動の効果等	<p>出品者（障害者）のみならず、出品者の家族やサポーターの方々から感謝や満足した言葉をいただいています。来場者数も毎回1000名（会期6日間）を超えており、この展覧会に対する認知度も高くなっています。今後も多くの障害のある方に参加いただき、障害者支援に寄与していきたいと考えています。</p>

活動の様子



開会式の様子



展示の様子





プロフィール

所在地	神奈川県横浜市	活動分野	学習支援、さをり織、草木染、余暇支援
受賞者名	ぐるーぷ・ちえのわ	主な対象	発達障害・知的障害・ 身体障害（重度障害含む）
活動名称	ちえのわホームを拠点とした余暇支援活動	団体の規模（団体の場合のみ）	スタッフ10人（あとは地域の方 や学生ボランティア）
こんな活動です	～まなぶ・あそぶ・つくりだす～		
連携している 団体等	近隣の小中、特別支援学校、地域ケアプラザ、社会福祉協議会		

活動の説明

①活動内容	<p>約30年前、小雀小学校の個別支援学級の子供達、親御さん達、そして地域の方達とのつながりの中から生まれたこのグループは、その学級に在籍し、3年生の時に重い病から天国に召された「ちえちゃん」こと山村千絵さんが、私達に残してくれた貴いつながりの輪から「ちえのわ」と名付けられました。現在4軒のちえのわホームを中心に次のような活動を行っています。</p> <p>★ちえのわ寺子屋・・・主に小学生、中学生を中心とした個に応じた学習支援。学習面で個別の対応が必要な子ども達や、不登校の子ども達（高校受験を目指す生徒も）、また、個別支援学級に在籍する子ども達も来所。放課後の子ども達の楽しい居場所にもなっています。</p> <p>★ちえのわサロン・・・特別支援学校や学級に在籍する子ども達、作業所等に通う青年達が、数名で行う余暇支援活動で、パンやピザ作りなどの調理や小集団での遊び、造形活動などを行っています。</p> <p>★ちえのわルーム・・・不登校の子ども達への学習や余暇の支援活動。</p> <p>★さをり織り・染め・陶芸などの教室・・・「みんなの家」では、さをり織りを、「アトリエ十色」では、草木染め、土染めや陶芸など、主に地域の大人の方を対象とした講座を開いています。「ちえのわアートくらぶ」では、子ども達、青年達も作品作りを楽しんでいます。</p>
②活動体制	<p>★ちえのわ寺子屋・・・月～土曜日、平日は放課後（第1、第2ホームのスタッフが支援）</p> <p>★ちえのわサロン・・・日曜日10時半～15時（スタッフ以外に若者や大人のボランティア3～4名）</p> <p>★ちえのわルーム・・・平日1対1で1時間～1時間半。</p> <p>★さをり織り、染め、陶芸・・・曜日や時間は個別に相談。「アートくらぶ」は隔月1回日曜に開催</p> <p>◎それぞれ利用者からの利用料や助成金等で運営。</p>
③活動の効果等	<p>「障がいのある子もいない子も一緒に」「だれもが安心できる居場所に・・・」という願いで行っています。学習支援を受けて、自信を持てるようになってきた子や、安心していろいろな活動を楽しむ不登校の子どもたちの姿も見られました。異年齢の集団で活動をする体験や、アートや調理などの活動を通して、お互いを認め合い、関わり合う姿も増えました。地域の方とのつながりも広がっています。</p>

活動の様子

 	 
ちえのわサロンの活動（公園での遊び・調理活動）	アートくらぶ（草木染めの活動・土染めの作品）

プロフィール

所在地	神奈川県横浜市	活動分野	スポーツ
受賞者名	横浜マリノス株式会社	主な対象	障がいのある児童生徒
活動名称	<ul style="list-style-type: none"> 横浜子どもスポーツふれあい DAY 横浜市立特別支援学校へのチケットの寄贈 横浜F・マリノスカップ「電動車椅子サッカー大会」 	団体の規模（団体の場合のみ）	約 120 名 （選手、コーチも含む）
こんな活動です	誰でも気軽にスポーツを楽しめる環境創り		
連携している団体等	教育委員会、小中学校や特別支援学校、サッカー協会や協力企業など		

活動の説明

①活動内容	<p>障がいのある子どもたちに、もっとスポーツを楽しんで頂きたいという想いから活動をスタートしました。</p> <p>◆横浜子どもスポーツふれあい DAY は、市立小中学校の個別支援学級及び特別支援学校に通う児童生徒を対象に、試合観戦への招待やサッカー教室などを実施。多くの子どもたちがスポーツとふれあい、楽しんでいます。</p> <p>◆今年で16回目を迎えた電動車椅子サッカー大会では、選手一人一人がプレイヤーとし参加するだけでなく、大会実行委員として広報活動やポスター制作など大会の運営に携わると共に、仲間とふれあい、地域社会との繋がりを実感することで更なる成長を目指しています。また大会の途中には体験会を行い多くの来場者に、障がい者スポーツに対する理解度や関心度の向上に繋げています。</p>
②活動体制	<p>横浜市教育委員会や学校、横浜子どもスポーツ基金など関係団体の協力のもと実施しています。</p> <p>また、電動車椅子サッカー大会では、日本サッカー協会やJリーグなどとも連携を図る共に、市立中学校のサッカー部生徒がボランティアとして参加するなど、障がいのある方々とふれあう機会を提供しています。</p>
③活動の効果等	<p>普段ではなかなか試合観戦に訪れる機会の少ない子どもたちが、プロサッカー選手の華麗なプレーに一喜一憂している姿は、活動に携わった全てのスタッフの励みになります。</p> <p>また電動車椅子サッカー大会など、障がい者アスリートが地域社会で活躍すると共に、障がいの有無問わず一緒にスポーツを楽しめるインクルーシブな環境を目指しています。</p>

活動の様子

	
横浜子どもスポーツふれあい DAY	車椅子サッカー大会

プロフィール

所在地	静岡県浜松市	活動分野	文化
受賞者名	Weedy	主な対象	何らかの障がいを持つ子(人)とその家族
活動名称	ダウン症など障がいのある子供たちとその家族の 社会参加を目指すストリートダンス	団体の規模（団体の場合のみ）	45名 うち障がい者 22名 その家族 23名
こんな活動です	みんなでLet's Dance		
連携している 団体等	特別支援学校、協働センター、NPO 法人、 行政（保健・福祉部局）等		

活動の説明

①活動内容	<p>2004年に代表が所属する「静岡ダウン症児の将来を考える会浜松グループ」で知り合った親たちを中心にダンスレッスンの場を作り、指導を始める。</p> <p>その後、何らかの障がいを持つ子（人）とその家族に自己表現の場を提供するために、ダンスグループ「Weedy」を立ち上げ、月2回のダンスレッスンにおいて、交流と社会参加の機会を提供する。</p> <p>障がいによる筋力、体力、理解力に配慮し、繰り返し指導することにより、2005年よりイベントで自分たちのダンスを披露できるまでになり、自己表現の場としてダンスイベント等に参加する。</p> <p>サンストリート浜北やグランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）などで一般のダンスイベントに参加し、来場者に理解を深めてもらい、また、一般参加者のレベルの高いダンスを観ることで、意識の向上を図る。この頃から市外のダンスイベントへも参加し、県内外の障がい者チームとの交流を図る。</p>
②活動体制	<p>月2回定期的なダンスレッスンの機会を提供し、余暇の充実と交流の場を設けることに努めている。また、年数回外部講師を招き、レッスンを受けることにより、社会性の向上に努めている。</p> <p>市内の特別支援学校、施設、協働センター、福祉センター等のイベントに演者として参加することにより、自己表現の場と余暇活動への理解と必要性の周知に努めている。</p> <p>また、市内外の大学、地域の祭り、一般のダンスイベントに参加することにより、障がいへの理解と社会参加の支援に努めている。</p>
③活動の効果等	<p>創設15年目となり、本人たちの成長とともに参加できるダンスイベントも増え、大学、施設や福祉関連のイベントの定期的な招待も来るようになり、ダンスを観た方から出演依頼をもらうこともある。</p> <p>また、ダンスを観て活動を知った幼児の入会者も増えている。</p> <p>今後も社会参加の機会と自己表現の場を提供できるよう努め、より多くの方に関わっていただける体制づくりを進めていきたい。</p>

活動の様子



H29 東部協働センターまつり



H30 浜松医大祭

プロフィール

所在地	京都府京都市	活動分野	スポーツ
受賞者名	一般社団法人 京都障害者スポーツ振興会	主な対象	障害を持つ人全て
活動名称	障害のある人のためのスポーツ振興事業	団体の規模（団体の場合のみ）	顧問 3名 常任理事 9名 理事 11名 監事 2名
こんな活動です	障害者が「いつでも・どこでも・気軽に」スポーツができる環境づくりとスポーツの高度化と輪を広げる活動		
連携している団体等	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、スポーツ団体、NPO法人、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）		

活動の説明

①活動内容	<p>●スポーツの輪を広げる各種活動●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に島津アリーナ京都（京都府立体育館）にて毎月1回「障害者スポーツのつどい」を実施。府立体育館が完成した昭和47年より続く事業であり、障害のある人にとって安心してスポーツに参加する場を保障し、府立体育館を持続的に「共用」することで府市民の障害理解を促進する。（平成30年11月現在で542回実施し、年間延べ参加人数おおよそ2000名。） ・府立体育館以外の京都府内各地（4地域）にて「心身障害者スポーツのつどい」を実施、延べ参加人数おおよそ1500名。 ・障害者スポーツ指導者研修会を年間3回実施し、障害者スポーツの普及に努める。各講習会定員50名で実施している。 <p>●スポーツの高度化を目指す活動●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ大会への選手派遣事業（平成30年は京都府選手団役員・選手55名派遣）、団体競技強化事業の実施。 ・全京都障害者総合スポーツ大会（卓球バレー・卓球・水泳・陸上・アーチェリー・フライングディスクの6競技）の実施。年間おおよそ2000名が参加。 <p>●障害ある子ども達のスポーツ活動への取り組み●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会の対象年齢に届かない子どもを対象にスポーツ講習会を実施。将来、各種スポーツ大会への出場につなげることを目的にしている。 <p>京都市立小学校でのスポーツ教室、「京都障害児童生徒陸上競技体験会」「京都障害児童生徒水泳競技体験会」の実施等。</p> <p>その他、行政などの他団体とも連携し、積極的に事業展開している。</p>
②活動体制	「競技・つどい・指導者・広報・総務」の5つの委員会に分かれており、アスリートの育成から初心者へのスポーツ参加のなど幅広く事業を進めている。
③活動の効果等	受賞団体が主催する「全国車いす駅伝競走大会」は、行政・企業・関係諸機関が一体となり実施する京都の冬の一大スポーツイベントである。平成31年3月開催予定の第30回大会は節目の大会となり、この大会より天皇盃が授与されることが決まり、ますますの盛り上がりが見込まれる。沿道を懸命に走り、タスキをつなぐ姿は障害者・健常者の垣根を越え、大きな感動と数々のドラマを生みつけており、障害のある人々に対する府市民の理解と認識を深める大きな意義を果たしている。

活動の様子



全京都障害者総合スポーツ大会・卓球バレー大会



「京都障害児童生徒陸上競技体験会」

プロフィール

所在地	大阪府大阪市	活動分野	学習、スポーツ、文化
受賞者名	大阪市聴言障害者協会	主な対象	聴覚障害
活動名称	聴覚障がい者成人学校事業	団体の規模（団体の場合のみ）	会長1名 副会長1名 事務局長1名 局員3名 会員数394名
こんな活動です	聴覚障がい者の社会参加が促進されるように取り組んでいる学習活動です。		
連携している団体等	幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、児童館、公民館、図書館、PTA、社会教育関係団体、スポーツ団体、NPO法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）、各障がい者当事者団体、大阪市手話サークル連絡会及び関係する手話サークル、大阪手話通訳問題研究会、全国手話研修センター、手話研究所		

活動の説明

①活動内容	<p>大阪市委託事業として、昭和49年に始まり、今年で44年と約半世紀に至る。聴覚障がい者の社会参加に向け、文化・教養ならびにコミュニケーション力の向上を図ることを目的に、必要な知識や現代的・社会的課題をテーマとする学習活動（成人学校）と、コミュニケーション能力の促進、文章読解、正しい日本語の使い方などをテーマとする学習活動（国語教室・口話教室）を実施している。</p> <p>成人学校は、防災や高齢者問題等の現代的・社会的課題、生活習慣病等の健康に関することや時事問題等を学習内容とし、講義形式だけでなく、社会見学も取り入れて受講者同士の交流を図ることで、効果的な学びとなるよう心がけている。</p> <p>国語教室は、漢字と手話に関する学習のほか、ことわざ・慣用句といった日常的によく使われる表現、IT用語やカタカナ語等の新しい言葉の学習などを行い、コミュニケーション力の向上をめざしている。</p> <p>口話教室は、口形の読み方の訓練によるコミュニケーションの意欲の回復や、言語を楽しく学び発語の自信をつけることをめざして実施している。教材として、新聞記事を取りあげて社会事象にふれることで社会参加に向けて役立つような内容としたり、俳句・川柳・標語を活用して言葉の楽しさを感じながら語感が磨かれるようにするなど、工夫に努めている。</p>
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ・成人学校は、前・後期各10回程度、毎月2回を基本に、各回2時間程度の学習活動をおこなっており、毎回20人程度が参加している。 ・国語教室、口話教室は、各20回おこなっており、昨年度はそれぞれ約350人、約250人の参加があった。
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・成人学校では毎回、積極的な質疑応答がおこなわれており、とても活気のある活動となっている。特に、社会の状況と自分の生活を結びつけて、思いを伝えることの難しさを感じている参加者が、共に学び、身近な体験を語り合うことで、自分とのつながりを見出せるようになってきている。また、健聴者との関わりに身構えていた参加者が、社会との関わりを積極的に考えることができるきっかけとなっている。 ・口話教室は生涯学習の場であり実施されていないことから、聾学校で口話法を学んだ高齢者や手話を学んでいない中途失聴者の方から広域的に問い合わせが寄せられている。

活動の様子



成人学校での受講風景



国語教室での受講風景

プロフィール

所在地	福岡県北九州市	活動分野	文化
受賞者名	公益財団法人 北九州市身体障害者福祉協会	主な対象	身体障害・知的障害・精神障害
活動名称	北九州市立東部障害者福祉会館や北九州市立西部障害者福祉会館等運営、北九州市障害者芸術祭開催事業等	団体の規模（団体の場合のみ）	34人
こんな活動です	障害のある人の文化活動を企画・支援しています		
連携している団体等	NPO法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、行政（教育委員会、保健・福祉部局）		

活動の説明

① 活動内容	<p>昭和54年から北九州市立障害者福祉会館の運営を受託し、東西の障害者福祉会館を拠点に文化・教養に関する講座を開催するなど、障害のある人の生涯学習支援を行っています。</p> <p>一方で、障害のあるなしに関わらず地域で共に生きる社会づくりを目指して、福祉会館から地域の市民センター等の講座に障害のある人が参加できるよう、ノウハウの提供や講座の合同開催などに取り組んでいます。平成20年度から、北九州市の「北九州市障害者芸術祭開催事業」を受託し、ステージイベントや作品展を通して、障害のある人の文化・芸術の発表の場を提供しています。</p> <p>平成28年度に北九州市身体障害者福祉協会アートセンターを立ち上げ、市庁舎や地域喫茶店、商店街で作品展やライブイベントを行うなど「障害のある人のアート活動」と「アートを通じた障害のある人の可能性」について普及・啓発活動を行っています。</p>
② 活動体制	<p>（1）北九州市立東部・西部障害者福祉会館</p> <p>障害特性に応じて配慮するポイントが一人ひとり異なるため、ボランティア団体や関係団体との連携による支援を行いながら講座を実施しています。</p> <p>（2）北九州市身体障害者福祉協会アートセンター</p> <p>アート活動の普及・啓発を目的に、地域の喫茶店、商店街、アート活動に取り組んでいる障害福祉事業所と連携しながら活動を行っています。</p>
③ 活動の効果等	<p>地域と連携しながら、障害のある人の文化活動を企画・支援したり、障害のある人の受け入れのノウハウについて普及・啓発に取り組んだりすることで、障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会へ一歩ずつ近づいていくことができると考えます。</p> <p>今後も地域と一緒に小さな取り組みから積み重ねていきたいと思えます。</p>

活動の様子

	
ダンスワークショップ	視覚障害者対象クラフト講座

プロフィール

所在地	大阪府堺市	活動分野	文化
受賞者名	仲谷 侑子	主な対象	LD・ADHD・自閉症等の発達障害や軽度知的障害を持つ青年
活動名称	大阪LD・軽度発達障害親の会「翼」演劇教室		
こんな活動です	個性に合わせて人形劇や紙芝居などの演目を選び練習		
連携している団体等	大阪LD・軽度発達障害親の会「翼」		

活動の説明

①活動内容	<p>1992年5月「翼」発足以来26年間、発達障害等を持つ子供たちに、演劇教室を通じて仲間づくりを進めてきました。私が担当するようになってからは、一人一人の個性に合わせた別々の作品を月に1回みんなで練習をし、1年に1回「翼」の総会で参加者全員の前で発表しています。月一回の活動ですが欠席はほとんどありません。朗読、人形劇、紙芝居、ペープサート、ゲーム等すべては、私の手作りの教材ですがみんな親しんでくれています。最近では各自が演目について、こっちのほうが良いとか英語劇をやりたいとかの希望をだしてくれるようになり、確かな成長を感じとることができています。</p> <p>現在参加者は10名、当時小学生であった子供たちも青年となりましたが、継続して参加しています。</p>
②活動体制	<p>大阪市長居スポーツセンターの部屋を借りて、毎月第2土曜日に練習をしています。</p> <p>翼の会のメンバー1名が演劇担当として毎回立ち会っています。現在の参加者は10名です。</p>
③活動の効果等	<p>当初は一つの作品を全員でやらせていましたが、それぞれの個性が違うので1人の子に負担がかかってしまい、うまくいきませんでした。それで一人一人別々の作品をやらせたらどうかと思い、それぞれの個性にあった作品を選び、朗読・人形劇・紙芝居・ペープサート・ゲーム等やらせてみました。そうするとみんなその作品に一生懸命に取り組むようになり月一度ですが少しずつ進歩がみられるようになりました。殿様の役、おじいさん、おばあさんなどの役、どの役もなり切ったようなセリフがいえるようになり、聞いていても面白いと思えるほどに成長がみられました。総会の場で発表させてもらうようになってからは、お母さま方も「うちの子は大きな声が出るようになりました」「みんなの前で堂々と発表できてよかったです」とか、うれしい感想をいただくようになりました。何よりうれしいのは月1回の練習日にみんな元気よくニコニコしてやってきてくれることです。嫌がっていないんだなと思い、私もうれしくなります。一人の子が稽古をしている時は他の子はそれを見てアハハと笑ったり、一緒にクイズに答えてみたり、全員が一生懸命に取り組んでいます。これが仲間づくりなんだと思います。稽古のあとはおしゃべりタイムとしてみんなのお話を聞くようにすると、みんな我先にと「先生あのボク〇〇やねん」とか、聞いてほしいことがいっぱいあるようです。こういう時間こそが先生と生徒のコミュニケーションが取れる場なんだと思い、私も真剣に聞いて精一杯答えるようにしています。演劇教室は、人のことを思いやったり、優しい気持ちになれたり、一緒に何かをして仲間意識を感じてもらえる場だと思います。これからも演劇を通して、みんなの成長にやくだつような教室にしていきたいと思っています。時々私が絵本の読み聞かせをしたりします。終わった後の感想を聞くと「ビロードのうさぎ」（作マージェリー・W・ビアンコ）の時は「うさぎが生き返ってよかったなあ」とか、わたしが思っていた以上に感じ取ってくれる子もいます。みんな同じ感想ではありませんが、それぞれが自分なりに受け止めているようです。自分が演じるだけでなく人のやっているのを見て感じとる心というものが育っていけばいいなと思います。</p>

プロフィール

所在地	東京都世田谷区	活動分野	余暇活動支援（料理、スポーツ、音楽） 相談支援（よろず相談） 卒業生保護者の親睦
受賞者名	青鳥ミチル会	主な対象	東京都立青鳥特別支援学校（旧東京都立青鳥養護学校）卒業生とその保護者
活動名称	東京都立青鳥特別支援学校卒業生保護者の会 同窓会（青友会）の支援、関係機関との連携による 障害者理解の促進、啓発	団体の規模（団体の場合のみ）	会員数 約 300 名 その他特別会員（教職員）
こんな活動です	知的障害のある卒業生に対する学びや相談、親睦の機会を提供し、社会参加を促進、豊かな生活の実現を支援		
連携している団体等	特別支援学校、PTA、社会福祉法人、 東京都手をつなぐ育成会		

活動の説明

①活動内容	<p>昭和 40 年創立して以来 50 年余りにわたり、知的障害の理解啓発及び卒業生の支援を行う。</p> <p>1. 東京都立青鳥特別支援学校卒業生の同窓会（青友会）の支援</p> <p>（1）<u>総会・運動会</u> 70 代までの卒業生 100 名程度の参加、近況報告・相談等。運動を通して親睦。いずれもミチル会理事と教職員が運営の中心となり、地域ボランティアを受け入れて実施。</p> <p>（2）<u>卒業生支援「よろず相談」・「料理教室」</u> 毎回 30 名余の参加。よろず相談は年 5 回、金曜日の夕刻より学校のカフェ（喫茶サービス実習室）で実施。懇談や相談、出し物や歌など楽しんでいる。料理教室は年 5 回、日曜日 学校調理室にて生活支援と調理、食事、懇談等実施。</p> <p>（3）<u>成人を祝う会</u> 成人を迎える卒業生、保護者、教職員が参加する。ミチル会主催企画運営。</p> <p>（4）<u>バスハイク・学習会</u> 卒業生及び保護者のための研修、レクリエーション及び社会見学</p> <p>2. 関係機関との連携による障害者理解の促進</p> <p>（1）東京都障害者スポーツ大会（2）東京都手をつなぐ育成会（3）学校及び PTA（4）東京都障害者地域交流集会</p>
②活動体制	<p>会員より 40 名ほどの理事を選出。会長、副会長、会計、書記、会報、青友会担当、研修に分かれ企画運営に当たっている。また、事業の内容により、東京都立青鳥特別支援学校の教員や青鳥特別支援学校 PTA と連携、協力し運営している。</p>
③活動の効果等	<p>東京都立青鳥特別支援学校の卒業生を中心とする知的障害者の生涯学習の機会により、様々な悩みや困難な状況を把握し、助言や支援を行うことができた。交流の機会を設けることで豊かな生活の支援に繋がっている。これらの活動を通して他の社会資源を活用する機会を広げてきた。</p>

活動の様子

		
よろず相談	成人を祝う会	料理（余暇活動支援）



プロフィール

所在地	兵庫県神戸市	活動分野	スポーツ
受賞者名	一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟	主な対象	身体障害及びその関係者
活動名称	日本パラ水泳選手権大会の開催、選手の競技力向上や指導者の育成に向けた事業の実施	団体の規模（団体の場合のみ）	選手 685 人、支援者 67 人、役員 18 人、事務局 9 人
こんな活動です	障がいがあっても泳げるよ！生涯現役を目指そう！		
連携している団体等	特別支援学校、スポーツ団体、行政（保健・福祉部局）		

活動の説明

①活動内容	<p>1964年の東京パラリンピック大会と1965年の国民体育大会のあとに開催された第1回全国身体障害者スポーツ大会(岐阜大会)が全国的な競技会の始まりです。しかし、この大会は一生涯に一度の参加しか許されず、競技として競泳を続けていこうとしても、県レベルの大会しか競技会がない状況でした。1974年日本で初めて大阪市に身体障がい者専用のスポーツセンターがオープンし、多くの身体障がい者がスポーツに親しむようになりました。このような状況の中で、全国規模の大会を開催しようとの声があがり、日本選手権大会開催を目標に、1984年4月に日本身体障害者水泳連盟が発足し、1984年9月9日に「第1回日本身体障害者水泳選手権大会」が開催されました。その後、日本選手権大会は毎年実施しています。</p> <p>一方、世界では、オリンピックに並ぶパラリンピックが1989年に国際パラリンピック委員会(IPC)の設立を機に、障がいのある選手による世界最高峰の競技大会へと発展していきます。日本においても、パラリンピックへの参加を目指して、1991年以降、(公財)日本障がい者スポーツ協会と共催して、より高いレベルの選手による競技会としてジャパンパラ水泳競技大会を実施してきました。また、国際大会への派遣や選手強化のための合宿など、パラリンピックを目指した活動を展開しています。</p> <p>2013年4月からは新たな組織を設立、今までの理念を引き継ぎながら、一般社団法人「日本身体障がい者水泳連盟」として①「ゆるプル選手権大会」など水泳・水中運動の普及 ②競技大会の開催 ③指導者の養成 ④競技役員の養成 ⑤選手による社会貢献活動 などの活動を進めています。これらの活動を進めるために連盟では、会員アンケートなどを行うとともにビジョン「東京2020レガシーと新たな共生社会からの飛躍を目指して」を定めて取り組んでいます。</p>
②活動体制	<p>連盟活動を支える会員は、「技術支援会員」と定款で位置づけ、専門性を持ったうえでのボランティアを養成し、活用しています。また、公益財団法人日本水泳連盟の加盟団体「障がい者水泳協会」の一員として、他の水泳関係団体との協力関係を構築するとともに、6つの地域に地域連盟を設置、地域からの活動体制を作っています</p>
③活動の効果等	<p>これらの歴史、活動から、会員も増加傾向にあり、特に若い16歳から20歳までの会員が増えています。また、国際大会などでも活躍する選手も増えており、インドネシア2018年パラゲームズでは、日本の獲得したメダルの半数が水泳となっています</p> <p>水泳・水中運動は、装具などを付けずに行う唯一の障がい者スポーツです。自由に浮力を利用し、解放感あふれるプールなどでの運動は多くの障がい者に取り組んでいます</p>

活動の様子

	
ゆるプル選手権大会	競技大会

プロフィール

所在地	奈良県奈良市	活動分野	スポーツ
受賞者名	橋本 和典	主な対象	障害者全般
活動名称	奈良県障害者スポーツ協会、奈良県障害者スポーツ指導者協議会、日本身体障害者アーチェリー連盟		
こんな活動です	地域における障がい者スポーツの普及活動 障がい者アーチェリーの普及、強化		
連携している団体等	スポーツ団体、行政（保健・福祉部局）		

活動の説明

①活動内容	<p><奈良県障害者スポーツ協会（以降、協会）での活躍> 2001年に協会が設立され、設立時から事務局業務の支援を行い、県内の障がい者スポーツの地域振興を行った。2004年から2007年までは事務局長として協会の運営と圏内の障がい者スポーツの振興に関して中心的な役割を果たした。特に同氏は積極的に障がい者スポーツ指導員の講習会を行い、県内の指導者を増やし、現在、奈良県内の障がい者スポーツ指導者数は200名を超えている。</p> <p><奈良県障害者スポーツ指導者協議会（以降、協議会）、ブロック長としての活躍> 同氏は、協会で育成した指導者の活躍の場として、指導者協議会の運営にも尽力し、2014年からは会長に就任し、協議会の発展に尽力している。</p> <p>2004年からは、指導者協議会近畿ブロックの代表として、日本障がい者スポーツ協会が運営する指導者運営委員会（全国の各ブロックを代表するブロック長が出席して指導者の今後について話し合う委員会）委員となり、近畿ブロックの実状を踏まえ、指導者の技術力向上や指導者の活躍の場の拡大に努め、国内の障がい者スポーツの普及に尽力した。</p> <p><日本身体障害者アーチェリー連盟（以降、連盟）での活躍> 1992年理事として選手強化、と普及活動に携わるようになった。1996年アトランタパラリンピック、2000年シドニーパラリンピックに、アーチェリーの監督として参加し、アトランタではアーチェリーは個人で金メダルを1個、シドニーでは団体で銅メダル1個獲得に貢献した。</p> <p>その後、選手強化の第一線を後輩に譲り、自身は連盟の事務局として、日本選手権等の大会運営、選手登録、強化費の精算作業などの事務作業を行い連盟運営、選手強化を陰から支えた。</p> <p>現在は連盟の理事長（代表理事）として、統括的に連盟運営を行い、アーチェリーを通して障がい者スポーツの発展、振興に貢献している。</p>
②活動体制	<p>奈良県障がい者スポーツ協会事務局長として県内の障がい者スポーツの普及活動に尽力。退職後、奈良県障害者スポーツ指導者協議会会長として、活動している。</p> <p>また、日本身体障害者アーチェリー連盟理事長として、国内のパラアーチェリーの普及、強化活動を行っている。</p>
③活動の効果等	<p>奈良県において地域密着型の障がい者スポーツの振興を地道に行い、障がい者スポーツ指導員の養成、県大会の開催など行った。橋本氏の活躍により、より身近な場所で障がい者がスポーツに参加する場が広がり、県内で障がい者スポーツを楽しむ人が増えた。</p> <p>また、日本身体障害者アーチェリー連盟において、事務局の地盤固めを中心的に行い、連盟の基礎を築いた。アーチェリー競技は、一般とパラ競技ではルール、競技場が全く同じで、障がいのあるなしに関わらず同じラインに立ち、同じ距離を狙うことができる。この競技特性を活かし、橋本氏はアーチェリーを通じて、共生社会の実現に向け尽力している。</p>

活動の様子



プロフィール

所在地	東京都港区
受賞者名	渡嘉敷 美恵子
活動名称	手話ダンス
こんな活動です	手話ダンスで結ぼう心の糸
連携している団体等	幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、社会教育関係団体、NPO法人、文化芸術活動を行う団体、社会福祉法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局、法務省）、NHK 厚生文化事業団、聴覚障害者本部、日本補助犬協会、手をつなぐ親の会、ロータリークラブ、ソラクラブ、ライオンズクラブ、パイロットクラブ、ソチプロミスト、早稲田大学、学習院女子大学

活動分野	社会福祉、社会教育
主な対象	聴覚障害、肢体不自由、知的障害者とその家族

活動の説明

①活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 平成3年6月から手話ダンスを始める。創作、取得した手話ダンスを利用して、東京近郊エリアでボランティア活動を開始。平成30年3月で、聴覚障害、肢体不自由、知的障害者とその家族を中心とした支援対象人数は、全国で1500余名。 小中高での手話ダンス披露、簡単な手話の指導（例えば、白百合学園、聖心女子学院、日大二高では保健体育等の授業の一環で実施）。女子少年院/障害者作業所/老人ホームへの定期訪問、手話ダンス披露、簡単な手話指導（例えば、女子少年院の愛光女子学園、大阪交野女子少年院へは月1回）。イベント：老人ホーム、病院、地域祭り、大学祭（早稲田大学、学習院女子大学）など、様々な催事での手話ダンス披露、簡単な手話指導。 手話ダンスを披露するイベントの中で、障害者が人生で一番悲しかったことや周囲の方々からしてもらって嬉しかったことを話す機会を作り、障害者への共感、理解を得る工夫をしている。
②活動体制	<ul style="list-style-type: none"> 平成3年6月から手話ダンスを始め、平成14年3月にNPO法人手話ダンスYOU&Iを設立し、平成30年5月まで会長、現在は名誉会長。 YOU&Iの組織は本部東京で、東京（中野区、新宿区、杉並区、など8区、八王子市、調布市、三鷹市など7市、44サークル）、関東周辺（千葉県、神奈川県、埼玉県、群馬県、新潟県）、近畿（京都府、大阪府、滋賀県）、中国四国（岡山県、香川県）、九州（福岡県、熊本県）、沖縄県、などの支部がある。役員会、指導者会、聴覚障害者会をそれぞれ月1回、指導員会を月2回実施。これらの会合にて活動方針、内容を決定。本部の教材と指導により、聴覚障害者、肢体不自由者、知的障害者およびその家族と共に手話ダンス公演などを中心に、各種のボランティア活動を実施。 毎年開催されるチャリティセミナーのチケット売上金の中から、NHK 厚生文化事業団、日本補助犬協会、いくつかの障害団体に、毎年寄付をして貢献、連携している。
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 聴覚障害、肢体不自由、知的障害者が、日常使う手話をダンスで表現する楽しさと、聴覚障害者に伝わる喜びを感じている。健常者のサポートを受けて、聴覚障害者の中には、手話ダンスを指導する立場に育って貢献している会員もいる。 様々な障害を持つ方だけでなく、その家族も肩身の狭い思いを抱くなか、障害者の親には、手話ダンスの指導員、指導者となるよう導き、多数の方がその活動を通して、教えることに生き甲斐を持って貢献している。手話ダンスの講師として派遣され、教える立場に喜びを感じている。 手話ダンスに触れた、観た、子供から老人、男女を問わず広範囲に渡る、健常者と様々な障害者が相互理解を深め、協力して行く共生社会の精神を醸成することに役立っている。 知的障害者は、老化進行が早いのが、手話ダンスをすることにより、運動能力、記憶力の低下防止、明るく、楽しく生きるための心の安定に役立っている。 皆さんから、好きな曲の手話の振り付けを依頼されて、創作した手話ダンスのレパートリーは年々増加し、250曲以上になっている。意欲を持つ会員には、創作を勧めて指導し、手話が堪能な会員には振り付けができるよう指導し、共に育ってきている。 2018年（平成30年）3月で手話ダンスを指導できる指導員、指導者数は100名余に達している。 手話ダンスを通して、社会の中で、権利と義務を担い、差別されことなく生き生きと生活できる、ノーマライゼーションの基本理念を引き継いで活動することを支えて行く。

活動の様子



YOU&I チャリティセミナーエンディング



聴覚障害の方と車椅子方の手話ダンス

プロフィール

所在地	長崎県長崎市	活動分野	学習
受賞者名	長崎純心大学人文学部地域包括支援学科	主な対象	知的障害のある18歳以上の方で 長崎市内在住の方中心
活動名称	純心カレッジ三ツ山塾	団体の規模（団体の場合のみ）	学生サポーター25名程度、担 当スタッフ3名（本学教員）
こんな活動です	大学で学びと交流の場を		
連携している 団体等	行政（長崎県生涯学習課）		

活動の説明

①活動内容	<p>知的障害のある18歳以上の方で長崎市内在住の方を中心に、年間5回程度の講座を開講している。大学の学習施設・設備を利用し、大学教員や外部講師から学ぶ事を基本的なスタイルとし、年度初回には開講式、最終回には修了式を行い、修了式では学長より学習者1人1人に修了証書が授与される。講座の内容には、スポーツ実技指導、芸術体験、宗教、調理実習、科学実験、IT機器の操作など、幅広い分野の学習を取り入れてきたが、それぞれが興味関心をもって学習している。作成した作品や活動内容の発表をするなど、活動においては主体的に取り組めるような場面を意識し、またグループ学習やサポーター（学生）とペアを作って参加することで、お互いの交流を深めながら、一人一人の個性や意見を尊重し、ルールに縛られずに学び自己表現することが、三ツ山塾の特徴である。</p> <p>年に1回は学外実習として市内を散策し、長崎の歴史や文化に直接ふれながら学ぶ講座（「長崎さんぽ」）をとりいれている。平成30年度は「長崎の世界遺産を学ぼう」というテーマで、教会群や産業遺産をとりあげ、オリエンテーリング形式で問題を解きながら理解を深めた。</p>
②活動体制	<p>活動の主体は長崎純心大学地域包括支援学科であるが、広報活動等については本学の生涯学習センターを窓口長崎県生涯学習課（ながさき県民大学）と連携して運営している。</p> <p>体制としては、学科担当教員がコーディネーターとなり年間計画をたて、学内講師や外部講師に依頼し講座内容を決定している。また、学生を「サポーター」と位置づけ、学習者に対してさり気ないフォローをしながら参加しているが、福祉の対象者ではなく共に学ぶ人として関わりあうことを重視している。学習者との関係性を大切に考え、継続してサポートに入ってくれる学生もいる。</p>
③活動の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲への刺激 <p>高等教育機関における学習の機会の保障を目的に講座を開催してきたが、学生の1人として大学と繋がっているという意識がみられる。学習者の年代に応じて内容や参加方法の工夫を行っているが、周囲に刺激を受け「他の人と同じように頑張りたい」と学ぶ事への前向きな姿勢が窺える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動の充実と地域社会での孤立防止 <p>自宅で一人で過ごすことが多かった方が、目的のある外出の機会を得た事で生活に期待をもつ一つの要素となっている。また、人間関係の幅が広がり、学生と次会えることを心待ちにするような関係が形成されていることや、学習者同士のつながりで新たな受講者が増え、人との輪が広がっている。社会との交流が豊かになることで孤立を防ぎ、公私の区別や社会性が向上していくことも期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活経験不足の解消と自己表現の場 <p>「初めて包丁を握った」、「公共交通機関の利用に慣れてきた」、など講座を通じて得る経験に喜びの声が聞かれる。また、得意なことを自由に表現し周囲に認められる機会を増やすことで、自己肯定感が高まり自信につながっていることも考えられる。</p>

活動の様子



プロフィール

所在地	北海道帯広市	活動分野	スポーツ、馬を介した情操教育、 アニマルセラピー
受賞者名	国立大学法人帯広畜産大学馬介在活動室	主な対象	精神障害、発達障害
活動名称	人と馬の絆による教育・研究・社会貢献活動	団体の規模（団体の場合のみ）	教職員：14名 学生スタッフ等：10名
こんな活動です	十勝の雄大な自然の中、大きな動物（馬）を用いた障がい者の生活の質向上に取り組んでいます。		
連携している団体等	小学校、特別支援学校、NPO法人、企業・事業所、病院・保健所、行政（教育委員会、保健・福祉部局、政策推進部局）、米国コーネル大学		

活動の説明

①活動内容	<p>【障がい者乗馬等の社会貢献活動】 地方自治体との連携により、地域住民を対象とした障がい者乗馬体験事業を行っています。主に精神障害、発達障害の方を対象に、馬とのふれあい体験（馬へのブラシかけ、エサやり、さんぽ等）を行うほか、体調や身体機能を確認しながら乗馬体験を行っています。</p> <p>【スタッフ、学生への教育活動】 自身でバランスをとることが困難な障がい者に乗馬を提供することは、一般的な乗馬に比べて高い危険性を含んでいます。帯広畜産大学では、参加者に安全な乗馬体験を提供するために、学生やスタッフに対して毎年技術講習を行っています。</p> <p>【障がい者が安心して乗れる安全な馬の生産研究】 障がい者の方が安心して馬とのふれあい、乗馬体験に参加するには、優れた技術を持つスタッフに加え、穏やかで安全な馬が必要不可欠です。畜産分野、特に馬の繁殖研究に特色を持つ本学では、北海道固有種である北海道和種馬をベースに、気性が穏やかで小柄な馬の生産研究に現在取り組んでいます。 「スタッフへの教育」「安全な馬の生産」「障がい者乗馬の提供」がそれぞれ欠けることなく実施されることで、一時的な取組ではなく、継続的・発展的な障がい者の生涯学習支援活動につながっています。</p>
②活動体制	<p>本学において馬の教育・研究に携わる獣医学教員、畜産学教員により構成される馬介在活動室を活動主体に、大学と地域の連携業務を担当する国際・地域連携課が協力し、組織横断的に事業を実施しています。また、障害者乗馬を目的に活動する学生サークル「RDAちくだい」をはじめ、馬に関する他サークルに所属する学生がサポートに入ることで、円滑な事業の実施や参加者の安全確保を行っています。</p> <p>「人と馬の絆による教育・研究・社会貢献活動」は、本学が位置する帯広市との包括連携協定に基づく連携事業として実施しており、事業実施に必要な資金面のみならず、事業参加者の募集に係る周知活動において、帯広市と連携しています。</p>
③活動の効果等	アンケートからは全ての参加者から「楽しかった」「また参加したい」と回答を得ており、参加者の外出機会の増加、意欲の向上に効果がみられました。保護者からは、参加者の表情や精神的な落ち着きにより変化が見られた等の効果が報告されており、参加者の心身の健康増進に効果がみられています。

活動の様子

	
ふれあいの様子：ブラシ掛けで人も馬もリラックス	乗馬体験の様子

プロフィール

所在地	静岡県静岡市	活動分野	学習
受賞者名	国立大学法人静岡大学	主な対象	静岡市と周辺地域の知的障害をもつ社会人
活動名称	公開講座「学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～」	団体の規模（団体の場合のみ）	教職員 30 人 学生スタッフ 15 人（平成 30 年度現在）
こんな活動です	大学での学びと交流が広げる社会参加		
連携している団体等	特別支援学校、行政（教育委員会）、静岡県障害者就労研究会		

活動の説明

①活動内容	<p>・本公開講座は、2006 年より静岡県障害者就労研究会が実施を行い、2007 年から静岡大学の公開講座として実施・運営をし、開講している。参加対象は知的障害を持つ社会人であり、各回 50 名を定員とし、毎年開講されている。</p> <p>・生涯学び続ける機会があることは、社会参加の機会と幅が広がり、人生をより豊かにすることができるが、今までこのような学習の機会が成人の知的障害者にはあまり用意されてこなかった。また、知的障害者の就労を支える観点からも、余暇や生涯学習の充実が重要である。</p> <p>・本公開講座では、毎年 2 回～3 回のペースで開講されており、自然界の現象や社会における出来事について、参加者の希望を元に決定した内容の講義を聴く等、「主体的な学び」を提供している。また、プログラムの中には演習や体験学習を取り入れ、学びのサポーター（静岡大学学生）を配置することで、交流を伴った講座を開講でき、障害のある人となない人が共に学ぶ「ユニバーサルな学び」を実現している。</p> <p>また、同時に一般市民や障害者支援に携わる方を対象に、専門家による講演会も実施しており、障害者支援について理解を深めるための講座ともなっており、広く市民に開かれている。</p>
②活動体制	<p>静岡県障害者就労研究会が講座企画を行い、静岡大学が当研究会と連携し公開講座として実施・運営にあたっている。また、平成 29 年度から静岡県教育委員会の後援の下、広報の面で協力いただいている。</p>
③活動の効果等	<p>毎回の講座ではボランティアや学びのサポーターを合わせて 80～100 名を超える参加者があるが、その中において近隣高校生のボランティアの参加も近年始まった。高校生は当初 2～3 人の参加数だったが、平成 29 年度では 10 人にまで増加した。また、これまで公共交通機関で移動できなかった知的障害者の方々が回数を重ねるごとに友人と参加できるようになったり、別の学習会にも参加する様子が見られるようになるなどの変化があり、知的障害者の方の社会参加の機会増加に貢献している。</p>

活動の様子



講座の様子①



講座の様子②

プロフィール

所在地	群馬県前橋市	活動分野	学習、スポーツ、文化、 その他（農園活動、本人の会）
受賞者名	ひまわり会（特別支援学校卒業生等を支援する会）	主な対象	知的障害者
活動名称	主に知的障害のある本人への余暇活動への支援	団体の規模（団体の場合のみ）	会員数約 340 名（知的障害者約 100 名） 群馬大学や高崎健康福祉大学の教授及び群馬 大学附属特別支援学校教職員約 30 名 県内の大学学生やOB・OG 約 30 名
こんな活動です	“仲間”との活動は“安心と笑顔”がいっぱい！		
連携している 団体等	特別支援学校、NPO 法人、社会福祉法人、企業・事業所、 行政（保健・福祉・教育部局）、群馬大学、高崎健康福祉大学 群馬県手をつなぐ育成会、前橋市手をつなぐ育成会		

活動の説明

①活動内容	<p>「ひまわり会」は平成 12 年に群馬県内の特別支援学校等の卒業生の「生活並びに社会自立の支援に関する事業」を行うことを目的に設立され、現在では本人の余暇活動支援等を中心に活動しています。</p> <p>◆本会主催の活動 ①クラブスペースワールド（年 6 回）②本人部会（年 2 回イベントの企画打合せ）③ふれあい発表会（県内の余暇活動のサークルや個人の活動発表の場）④余暇活動サークルマップ発行</p> <p>◆独立して活動しているサークル ①陸上サークル（毎週日曜練習、年 3 回マラソン大会出場）②サッカークラブ（TSUBASA FC）（毎週日曜練習・スポーツ大会、交流試合等へ出場）③ふれあい農園（毎月 2 回のほか、イベントでの販売活動など）</p> <p>◆公開講座の企画・実施 群馬大学では地域社会における教育文化の向上に資することを目的に昭和 63 年度から公開講座を実施しています。平成 18 年度からは「知的障害者向けの公開講座」を教育学部障害児教育講座の金澤教授（本会調査研究部門常務理事）を中心に群馬大学地域連携推進室・ひまわり会・大学生ボランティアが連携して開講しています。（これまでの講座：陸上・サッカー・テニス・ダンス&音楽・和太鼓・合唱・あいさつ講座・身だしなみ講座・障害者差別解消法について・美術&音楽 等）</p>
②活動体制	<p>●ひまわり会内に各サークルの支援部門、ふれあい発表会の実行委員会、公開講座・余暇活動サークルマップ編集の担当者を置き、本人や支援者のサポートを行っています。</p> <p>●サッカークラブ「TSUBASA FC」はコーチングスタッフ（群馬大学と高崎健康福祉大学の学生及びOB・OG）が中心に練習活動を支援しているほか、県内の障害者サッカー普及のためにも貢献しています。</p>
③活動の効果等	<p>障害者ご本人の生活や就労を支援していくうちに“余暇活動”が生活の質を高め、社会との接点となる重要な活動であることに気づかされました。①サッカーや陸上で体を動かしたり、農園で野菜を育て収穫したりすることを通して、リフレッシュできます。②障害を持つ本人たちと支援者が協働して行事を実施することで、自分の思いが形になり、達成感や充実感を得ています。③TSUBASA FC コーチングスタッフや公開講座に関わる大学生ボランティアは障害者と関わる中で、学生自身の成長が目覚ましいです。④余暇活動サークルマップは障害者（児）の療育や生涯学習の“きっかけ作り”として重要なツールとなっています。</p>

活動の様子

	
余暇活動サークルマップ	群馬大学公開講座“かっこよくあいさつしよう”

プロフィール

所在地	北海道札幌市	活動分野	学習、スポーツ
受賞者名	NPO 法人札幌大学スポーツ・文化総合型クラブ	主な対象	地域の特別支援学校、 特別支援学級に通う児童・生徒
活動名称	チャレンジド学習塾・スポーツ塾	団体の規模（団体の場合のみ）	札幌大学 特別支援教諭養成課程専任教員 3人、 北海道立特別支援学校 教員 1人、 地域ボランティアスタッフ・札幌大学学生 スタッフ 20人
こんな活動です	学習やスポーツを通して生涯学習		
連携している 団体等			

活動の説明

①活動内容	<p>本会活動は、2010年、本学の関係者と一組の親子のスポーツ活動からはじまりました。口コミで活動の良さが広がり、参加者が10人となり、20人となり、順調にその輪が広がり、それに合わせてスポーツと学習の2つの活動に発展してきました。近年では常時約40人～50人の児童・生徒が登録・活動するプログラムに発展しています。また、年に1回大学のセミナーハウスを利用してサマーキャンプも実施しています。</p> <p>この活動に参加している児童・生徒は、札幌及び近郊の特別支援学校・学級に通う児童・生徒で、毎月2回交互に開催される学習塾とスポーツ塾に参加しています。学習塾では、「読み・書き・計算する活動を通して『分かる』『できる』喜びを持たせる」こと、スポーツ塾では「友達と一緒に体を動かす楽しさを味わう」ことや「ゲームを通して友達とのかかわり合いを育てる」ことを大切にしながら活動を行っています。また本学のセミナーハウスを拠点に、実施されている1泊2日の「サマーキャンプ」では、近隣の特別支援学校高等部に協力をいただき、体験的な活動を行う他夕食づくりや様々な活動を通して「友達と協力し合いながら作業を進める態度」や「責任を持って作業に取り組む気持ち」を育てています。対外的な大会の参加については、北海道チャレンジドサッカー大会へも参加しており、何度か優勝も果たしています。</p>
②活動体制	<p>毎月の活動は、特別支援教育を専門にする教員のコーディネートのもと、教員志望の学生を中心とした本学学生、教職に就いている本学の卒業生、地域住民など約20人のボランティアスタッフにより支えられています。会場は本学の体育館、グラウンド、学生立志テラス:S-Wing（ラーニングcommons）、ダンススタジオSCoreなどを活動目的に応じて利用しています。</p> <p>教員を目指す学生は、実際の活動を通して、担当教員や、教職に就いている本学卒業生などの支援により児童・生徒の障害の特性など理解を深めるとともに資質の向上が図られています。</p>
③活動の効果等	<p>ボランティアが、障害のある児童・生徒たちと楽しく触れ合い心とからだを整える手助けをすることにより、その自己成長力を涵養しています。児童・生徒たちは毎回の活動により達成感や成功体験を得て他者との信頼関係も持てるようになり、集団に参加する力も高まり、その後の就学、進学、就職において個々の志望を着実に実現しています。また、大学生や地域住民にとっても、障害者理解を深める機会でもあり、特に教職を目指している学生には、資質の向上が図られています。</p> <p>チャレンジド塾の卒業生のなかには、地域に就職を果たした後、ボランティアスタッフとしてチャレンジド塾に戻ってきた人たちもいます。チャレンジド塾を終了し社会人として活躍している先輩が後輩を支える姿は、現在の参加者や支援者にとって活動継承の励みとなっています。今後もこの活動を障害のある人たちの生涯学習の場として一層発展させたいと思っています。</p>

活動の様子



チャレンジド学習塾の様子

教員を志す札幌大学の学生たちが地域の特別支援学校・学級の児童・生徒たちに「分かる」「できる」喜びを持たせるよう学びをサポートしています。



チャレンジドスポーツ塾の様子

スポーツ塾では「友達と一緒に体を動かす楽しさを味わう」ことや「ゲームを通して友達との関わり合いを育てる」ことを大切にしながら活動しています。

プロフィール

所在地	東京都板橋区	活動分野	学習、文化
受賞者名	淑徳大学東京キャンパスボランティアセンター	主な対象	知的障害者（高校生以上）
活動名称	知的障害者生涯学習支援事業 1) 音楽で遊ぼう等（余暇支援）、2) 一日大学体験（オープンカレッジ体制による生涯学習支援）	団体の規模（団体の場合のみ）	教職員 2～4 名、職員 2～3 名、 学生 20～30 名程度
こんな活動です	本学教員が講師を担い、大学をフィールドとし、学生がコミュニケーションを取りながら生涯学習を支援する取り組みです。2004 年度より実施しこれまでに合計 29 講座（参加者数はのべ 496 名）を開催しています。		
連携している団体等	特別支援学校、社会教育関係団体、社会福祉法人、行政（社会教育会館等）		

活動の説明

①活動内容	<p>参加者の趣味や生活のニーズに対応する様々な事柄をテーマにし、本学教員を講師、本学学生をスタッフとして開講しています。参加者と学生の双方に価値のある事業を目指しています。</p> <p>1) 音楽と遊ぼう 参加者（当事者）と大学生がともに手話うたやダンスなどを練習し（練習は1回1時間半を3回）、最終日に発表（大学祭または地域のお祭り）という流れで実施。参加者とスタッフが相互に交流し、楽しみながら練習・発表することを重視しています。</p> <p>2) 一日大学体験 「自己表現」というテーマのもとで、講義体験（大学紹介・芸術等の講義・レクレーション等）・学食体験（3種類のメニューから選ぶ）・ゼミナール体験（参加者と学生が対話し学ぶ時間および発表）を含む内容で構成。開催毎に、参加者が主体的に活動できる場面の多い体験（造形・自分史作り・調理等）を取り入れて実施しています。</p>
②活動体制	教員 2～4 名、職員 2～3 名、学生スタッフ 20～30 名程度
③活動の効果等	<p>参加者および保護者・支援者らへのアンケートの結果によれば、1)2)ともに継続が望まれている事業であり、参加者同士や学生との交流を通じた「自己表現」の機会となっています。また、余暇支援のみならず、生涯学習として自身の「障害」について知る活動や福祉サービスを利用することに関する演習、料理やパソコン等の生活に根差した講義や体験、参加者の年齢を考慮した芸術活動は、参加者や家族からの満足度が非常に高い結果となっています。さらに、健常者と関わる機会の少ない特別支援学校の卒業生や作業所勤務の知的障害者らには、比較的年齢の近い学生らと1対1で丁寧に関わりあうことのできるコミュニケーションの機会としても期待されています。</p> <p>参加者だけでなく、ボランティアとして参加する学生の障害に対する意識の変化や、障害理解の深化、および対人援助技術の習得が認められており、学生の学習機会としても効果が高いものとなっています。</p>

活動の様子



プロフィール

所在地	兵庫県姫路市	活動分野	発達障害児支援
受賞者名	姫路獨協大学医療保健学部子育て・発達障害サポート運営委員会	主な対象	発達障害をお持ちのお子さんとその家族
活動名称	プレイルームわくわく	団体の規模（団体の場合のみ）	教員：7名、学生スタッフ：3～10名 （学生のスケジュールにより変動あり）
こんな活動です	発達障害児と家族の遊び場サポート 思いっきり身体を使ってわくわくを体験しよう！		
連携している団体等	小学校、特別支援学校、社会福祉法人		

活動の説明

①活動内容	<p>医療保健学部の開設に伴い、その専門性を軸に地域貢献活動の一環として平成18年より発達障害支援者講座「のびのびセミナー」を開催。さらに学内プレイルームの完成に伴い、発達障害をもつ子どもたちや、その家族、療育関係者の支援を目的として以下の活動を実施。</p> <p>1. 主に月1回の頻度で、発達障害児とその家族を対象とした主体的な遊びの場の提供と、遊びを通じたコミュニケーションの促進を目的としたプレイルーム一般開放事業。2. 姫路市立障害者支援センター、障害者デイサービスセンター、障害者支援施設など計8団体への障害者余暇活動支援。3. 特別支援学校児童のトライやるウィークの開催、近隣小学校児童の発達支援。4. 発達障害児をもつ家族の支援、相談。地域の療育関係者への研修、学生への教育。</p>
②活動体制	<p>子どもの医療、療育、子育て支援を専門とする医療保健学部作業療法学科、こども保健学科、看護学部の教員と学生ボランティアを中心に12名前後での対応を行っている。</p>
③活動の効果等	<p>発達障害児の情緒の安定と遊具を使った遊びを通じての自己肯定感につながる成功体験の構築。発達障害児、子育て支援を目的とした「のびのびセミナー」を通じた地域療育関係者、発達障害児の保護者への普及活動。書写養護学校、加古川養護学校、増位小学校との連携（トライやる活動、校外学習の場としての利用等）。</p>

活動の様子



プレイルーム「わくわく」の活動の様子



発達障害・子育て支援講座「のびのびセミナー」の様子

プロフィール

所在地	北海道石狩郡当別町	活動分野	学習
受賞者名	北海道医療大学オープンカレッジ準備委員会	主な対象	知的障害のある方、知的障害と身体障害のある方
活動名称	オープンカレッジ in 北海道医療大学	団体の規模（団体の場合のみ）	毎回、受講生（障がいのある方）が約 35 名、学習サポーター（学生）が約 40 名、スタッフ（学生）が約 25 名の合計約 100 名程度。現在までの活動で延べ約 1800 名以上の知的障がいのある方が参加している。
こんな活動です	1 日大学生！講義を選んで勉強しよう		
連携している団体等	特別支援学校、スポーツ団体、NPO 法人、社会福祉法人		

活動の説明

①活動内容	<p>中等教育終了後、学習の機会を持つことが難しい知的障がいのある方を対象へ、大学での学習の機会を設けることを目的として、年に 2~3 回実施している。毎回 3 種類の講義の中から事前に 1 つを選んでいただき、その講義を受講していただいている。講義の他にレクリエーションを行い、運動や制作活動など受講生に楽しんでもらえるような活動も行っている。</p> <p>学習のサポートについては、受講生一人ひとりに学習サポーター（大学生等）を 1~2 人配置している。学習サポーターに対しては、事前に障がいに関する知識を高めることを目的として講習会を開催している。</p> <p>知的障がいだけでなく、身体障がいとの重複障害がある方に向けた企画や、社会福祉法人からの依頼を受けた小学生~高校生までの障がいがある子どもに向けた企画を行うなど、地域のニーズに合わせて活動の幅を広げている。</p>
②活動体制	<p>運営組織は学生を中心としており、講義企画部門（講義の企画、講師の依頼、当日の講義の補助）、レクリエーション企画部門（レクリエーション内容の企画、当日のレクリエーションの運営）、受講生連絡部門（参加希望者の情報整理、電話連絡）、冊子制作部門（受講生への案内冊子や当日配布資料の制作）、総括（4 部門をまとめる）の 5 部門で構成されている。大学や教員が学生のサポートを行っている。</p>
③活動の効果等	<p>受講生からは「次はこんなことを学びたい」との声もあり、継続した学習に対しての意欲が強まっている様子が見られる。また受講生同士、大学生との関わりから繋がりを広げることができる機会となっている。運営やボランティアを行う学生にとっては、知的障がいがある方との貴重な交流の機会であることから、障がい理解の促進、安全に対する配慮などについて考えた企画や実行する力を身につける経験となっている。企画には障がい者スポーツの団体や地域の方にも協力をいただいたり、近隣地域の施設からの開催依頼も増えてきたりしており、地域と繋がった障がいのある方の学習の機会が広がっている。</p>

活動の様子



座学講義の様子



車椅子ラグビーの講義の様子

プロフィール

所在地	京都府京都市	活動分野	
受賞者名	龍谷大学・龍谷大学短期大学部 龍谷エクステンションセンター (REC)	学習、文化	
活動名称	ともいき大学 (知的障がいのある市民のための福祉と教養講座)	主な対象	知的障がいのある方で、療育手帳「B」判定、およびそれに準じる方
こんな活動です	知的障がい者の「もっと社会や自分自身について学びたい」という願いに応じて	団体の規模 (団体の場合のみ)	
連携している団体等	龍谷大学短期大学部	教職員 (講義担当: 5名、事務担当: 2名、学生スタッフ: 10名)	

活動の説明

①活動内容	<p>知的障がい者の「もっと社会や自分自身について学びたい」という願いに応じて、龍谷大学短期大学部と龍谷エクステンションセンター (REC) が連携し、平成 15 年 10 月にこの「ともいき大学」を開始しました。平成 15 年度から毎年開講し、今年度で第 16 期になります。</p> <p>毎回本学の様々な学部の教員を講師に迎え、「高等教育を知的障がい者にいかに分かりやすく提供するか」に焦点を絞った特別講座です。本講座では、「自由に想像が広がる楽しさ」「自分と相手のつながりを考え、世界の中の自分を考える楽しさ」を大切にしています。</p> <p>每期ほぼ定員 (10 名) の受講者が集まります。受講者には講座内容を理解してもらいやすいように、勉強を助けてくれる学生アシスタントをひとりひとりに配置したり、講座のレジュメにはすべてルビをふるなどの工夫をしています。講座では大切なことを、できるだけ分かりやすく伝えるように工夫をし、分かるまでお話ししながら講座を進めています。</p> <p>講座の最終回には、講座全 10 回中 8 回以上出席の受講者には「修了証」を、8 回に満たなかった受講者には「参加証」を、「ともいき大学」コーディネータの先生から授与いただいています。</p>
②活動体制	<p>社会福祉学科を擁する本学短期大学部と連携しています。每期、「ともいき大学」のコーディネータである短期大学部の教員が、各学部の教員の中から担当講師のコーディネートを行っています。</p> <p>また、上述のとおり、受講者に講座内容を理解してもらいやすいように、勉強を助けてくれる学生アシスタントをひとりひとりに配置しています。同アシスタントには講座前に説明会を行い、「ともいき大学」のアシスタントをしてもらうにあたっての心構えなどを理解してもらっています。</p>
③活動の効果等	<p>受講者の満足度が高いためか、毎年度申込みをしてくださる受講者のリピーターもいらっしゃいます。アシスタントをしてもらっている学生の成長の機会にもつながっており、来年度以降も引き続き、開講していきたいと考えています。</p>

活動の様子



「親鸞さまから学びましょう」の講座の様子



「NPO やボランティアのことを学びましょう」の講座の様子

お知らせ

文部科学省Webサイトでは、障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています。是非ご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm

障害者の生涯学習

検索

or

